

2024年度  
大阪歯科大学附属病院

大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムC(複合型)

プログラム番号 050024201

1. 研修プログラムのねらい
2. 研修プログラムの特色、目標症例数
3. 研修期間
4. 研修歯科医の評価に関する事項
5. 協力型(Ⅰ)臨床研修施設及び研修実施責任者
6. 研修歯科医の指導体制
7. 募集・採用方法
8. 当院での研修歯科医の処遇等
9. 研修プログラム
  - 9-1.プログラム概要
  - 9-2.基本的診療業務1・2
  - 9-3.管理型臨床研修施設における専門的研修プログラム

※現在申請中の内容のため、一部変更が生じる場合があります

### 1. 研修プログラムのねらい

本研修プログラムは歯科医師として患者中心の全人的医療を理解し、歯科治療に関する基本的臨床能力(態度、技能および知識)を統合的に修練し、一口腔単位の総合診療を行える能力を習得することにある。さらに、医療人としての倫理観を身につけ、患者に信頼され社会に貢献できる歯科医師を目指し、生涯研鑽を行う基礎を育成する。

### 2. 研修プログラムの特色、目標症例数

協力型(I)臨床研修施設において高頻度疾患を経験し、習熟すると共に医療管理・地域医療の研修を行う。また、管理型臨床研修施設である大阪歯科大学附属病院では、高頻度治療を習熟し、基本的臨床能力を修得すると共に、歯科医療に関連する連携と制度を理解させる。さらに、専門診療分野の先進的な医療技術を習得することにより、歯科医師としての生涯研修の第一歩となり得るプログラムである。なお、本プログラムは大阪歯科大学附属病院を前期に研修するコース(C-1)と、後期に研修するコース(C-2)から構成される。

なお、目標とする症例数は基本的診療業務1と2を合わせて、以下の通りとする(ただし、管理型臨床研修施設における専門的研修に係る症例数は各診療科毎に別に定める)。

外来診療: 139例  
訪問診療: 3例

### 3. 研修期間

4月～翌年3月の1年間

但し、以下のように前・後期に分けて実施する。

臨床研修施設: 大阪歯科大学附属病院+協力型(I)臨床研修施設

コース	定員	2024年4月1日～2024年9月30日(6ヶ月)	2024年10月1日～2025年3月31日(6ヶ月)
C-1	60	管理型臨床研修施設	協力型(I)臨床研修施設

臨床研修施設: 協力型(I)臨床研修施設+大阪歯科大学附属病院

コース	定員	2024年4月1日～2024年9月30日(6ヶ月)	2024年10月1日～2025年3月31日(6ヶ月)
C-2	60	協力型(I)臨床研修施設	管理型臨床研修施設

なお、いずれのコースでも管理型臨床研修施設(大阪歯科大学附属病院)において、4月に登院式及びオリエンテーション、3月に症例報告会及び修了証書授与式を行う。

### 4. 研修歯科医の評価に関する事項

修了判定を行う項目: 目標症例数の達成、レポート評価、口頭試問の評価、出勤状況

修了判定を行う基準:

研修記録の内容を指導歯科医が確認し、目標症例数が全て達成されていること、レポートおよび口頭試問の指導歯科医評価がA～Cの3段階でB以上あり、出勤状況に問題がないこと

評価基準を以下に示す。

レポート A: 十分な事項が記載されている  
B: 最低限の必要事項が記載されている  
C: 不十分である

口頭試問 A: すべての試問に対してほぼ正しく解答した  
B: 試問した60%以上について正しく解答した  
C: 試問した60%未満しか正しく解答しなかった

実習 A: 到達すべき水準である  
B: 到達すべき水準の60%程度であった  
C: 到達すべき水準に及ばなかった

5. 協力型(Ⅰ)臨床研修施設及び研修実施責任者

No.	施設番号	協力型(Ⅰ)臨床研修施設	研修実施責任者
1	050551	医療法人社団弘成会牧草歯科医院	牧草 一人
2	050555	河村歯科医院	河村 達也
3	050556	医療法人西村歯科金剛診療所	西村 真
4	050561	医療法人白亜会小室歯科阿倍野診療所	小室 暁
5	050562	医療法人公英会伊藤歯科クリニック	伊藤 公人
6	050565	医療法人小室会小室歯科ステーションビル歯科診療所	小室 甲
7	050566	小室歯科ターミナルビル診療所	小室 寧
8	050567	医療法人誠仁会りょうき歯科クリニック	領木 誠一
9	050568	医療法人山翔会歯科山崎	山崎 行庸
10	050576	医療法人宝三会 川本歯科医院	川本 紀子
11	050577	医療法人うおずみ歯科診療所	魚住 智子
12	050580	医療法人星真会アモウデンタルクリニック	天羽 隆
13	050582	医療法人甞歯会もりかわ歯科リノアス診療所	森川 充康
14	050586	医療法人医之和会小児歯科・矯正スマイルプラザ	副島 之彦
15	050587	医療法人クレモト歯科小児歯科	呉本 勝章
16	050588	医療法人黒木歯科医院	黒木 克哉
17	050598	医療法人社団中川歯科医院	中川 豪晴
18	050600	医療法人社団おおつき会大槻歯科医院	大槻 榮人
19	050603	岩間歯科	岩間 總一郎
20	050604	医療法人金尾好章歯科医院	金尾 好章
21	050754	長澤歯科医院	長澤 成明
22	050755	医療法人宏仁会小池歯科医院	小池 宏忠
23	050756	藤原歯科医院	藤原 正彦
24	050764	めいゆう矯正歯科	陳 明裕
25	050765	医療法人社団アオキ歯科医院	青木 誠喜
26	050766	医療法人社団TDCタバタデンタルクリニック	田畑 勝彦
27	050770	医療法人おかもと歯科	岡本光司
28	050973	医療法人幸咲会橋本歯科医院	橋本 洋幸
29	050974	社会医療法人同仁会耳原歯科診療所	重松 雅人
30	050976	かめもと歯科医院	亀本 晃
31	051179	三上歯科クリニック	三上 豊
32	051183	磯和歯科医院	磯和 均
33	051187	医療法人慈心会歯科YASデンタルクリニック登美ヶ丘本院	立木 靖種
34	051193	医療法人宏心会横田歯科医院	横田 允宏
35	051196	医療法人禄士会大谷歯科箕面	大谷 朋弘
36	051269	医療法人ゆめはんな会ヨリタ歯科クリニック	寄田 幸司
37	051427	医療法人育歩会坂井歯科医院	坂井 秀明
38	051481	医療法人應信会としもり歯科医院	利森 仁
39	051504	医療法人田口歯科	田口 千洋
40	051772	医療法人いなほ会くまざき歯科山中田診療所	熊崎 眞義
41	051775	医療法人洗心会デンタルクリニックシンクトゥースJR大阪駅診療所	佐藤 康郎
42	051778	医療法人エイアンドディ文の里歯科クリニック	小室 匡弘
43	051781	医療法人長尾歯科医院	長尾 優

No.	施設番号	協力型(Ⅰ)臨床研修施設	研修実施責任者
44	051782	医療法人社団森本歯科医院	森本 哲司
45	051788	医療法人創歯会佐古歯科医院	佐古 好正
46	051790	医療法人明貴会山口歯科医院	山口 貴史
47	051791	医療法人明貴会MTI京都インプラントセンター(三条山口歯科医院)	山下 順司
48	051795	医療法人社団徳永歯科クリニック	徳永 徹
49	051800	大塚歯科第3ビル診療所	大塚 俊裕
50	051807	医療法人わはは会よしむらファミリー歯科	吉村 佳博
51	051815	医療法人富歯会川上歯科パンジョ診療所	安田 康治
52	051816	医療法人小川歯科医院	小川 清二
53	051824	医療法人五月会香川新金岡歯科医院	澤田 俊雪
54	051825	株式会社互恵会大阪回生病院	木村 一貴
55	051827	医療法人山林歯科医院	山林 一公
56	051828	医療法人正宥会林歯科医院	林 正純
57	051829	医療法人崇仁会小室歯科上六診療所	小室 美樹
58	051830	医療法人真和会東野歯科医院	東野 敏之
59	051837	医療法人仲西歯科医院	仲西 健樹
60	051838	室井歯科医院	濱田 悠里
61	060002	いえだ歯科医院	家田 靖文
62	060033	医療法人社団愛泉会山本歯科医院	山本 晴彦
63	060097	ふじわら歯科	藤原 成樹
64	060109	医療法人 朋悠会大阪エアポート歯科	新田 朋弘
65	060150	きおか歯科医院	木岡 慶文
66	060156	医療法人教歯会奥田歯科医院本院	奥田 教之
67	060159	大塚歯科クリニック	大塚 健司
68	060163	上谷徹歯科医院	上谷 徹
69	060173	医療法人清歯会浅井歯科	浅井 計征
70	060201	医療法人河津歯科医院	河津 祐之
71	060208	医療法人祐朋会うえだ歯科クリニック	上田 佳世
72	070079	医療法人社団けんこう会つだ歯科	津田 賢治
73	070087	医療法人高真会おかだ歯科・矯正歯科	岡田 高明
74	070096	アップル歯科クリニック	吉見 哲朗
75	070101	医療法人翔己会かい歯科	甲斐 智之
76	070136	医療法人清歯会洛西口浅井歯科	浅井 拓
77	070140	医療法人辰野歯科医院	辰野 隆
78	070142	医療法人藤浪歯科	藤浪 庸介
79	070144	医療法人清風会坂根歯科診療所	坂根 清文
80	070146	医療法人I'sMEDICAL安部歯科医院	安部 逸世
81	070148	医療法人大樹会OBPデンタルクリニック	今上 英樹
82	070150	医療法人青空会足立歯科クリニック	足立 哲也
83	070166	学園前山田兄弟歯科	山田 正人
84	080027	医療法人社団松田歯科医院	松田 成彦
85	080150	医療法人真一会まごころ歯科	野津 繁生
86	080151	タスクデンタルクリニック	吉次 良師
87	080152	医療法人育歯会三谷歯科	三谷 徹
88	090036	ろくもと歯科医院	六本 裕嗣
89	090092	医療法人田中歯科医院	田中 茂夫

No.	施設番号	協力型(Ⅰ)臨床研修施設	研修実施責任者
90	090097	医療法人 松本歯科医院	松本 英喆
91	090100	医療法人優俊会みやげ歯科医院	三宅 勝俊
92	100092	医療法人千啓会はっとり歯科クリニック	服部 泰直
93	100122	医療法人佑絢会C&Cナカidentalクリニック	中井 正徳
94	100123	岡本歯科	岡本 吉宏
95	100124	くきデンタルオフィス	九鬼 佐和子
96	100125	医療法人西浦歯科医院	西浦 勲
97	120023	医療法人翼翔会安岡デンタルオフィス江坂本院	安岡 大志
98	120097	泉田歯科医院	泉田尚宏
99	130072	医療法人照隅会 田中歯科医院	田中 照久
100	160063	医療法人柏康会デンタルクリニックT.T.C.	織田 正明
101	170056	医療法人社団シティタワー神戸三宮歯科	杉岡 伸悟
102	170057	もりした歯科医院	森下 寛史
103	170058	医療法人徳旺会長谷川歯科医院	長谷川 昌徳
104	170060	山田歯科医院	山田 隆造
105	170061	医療法人真生会福田デンタルクリニック	福田 真一
106	170062	ひらのファミリー歯科	林 一孝
107	200052	医療法人溪雲小児歯科フルフィル	塚本 幸子
108	200053	吉田歯科医院	吉田忠司
109	200054	医療法人桜美会さくらいデンタルクリニック	櫻井健次
110	200055	医療法人社団 のぶ歯科クリニック のぶ歯科・歯ならび歯科	丸橋伸行
111	200056	医療法人爽人会たかぎ歯科・矯正歯科	高木 秀人
112	200057	医療法人とみい歯科クリニック	富井 常忠
113	200058	医療法人謙信会あおぞら歯科クリニック	中岡 俊智

## 6. 研修歯科医の指導体制

研修歯科医は患者の担当医となり、指導歯科医の直接の指導を中心に、指導歯科医の直接の指導の元、研修を行う。

No.	氏名	診療科名	役割
1	中嶋正博 ※	顎口腔外科学室	総括責任者
2	松本尚之 ※	矯正歯科	副総括責任者
3	馬場俊輔 ※	口腔インプラント科	副総括責任者
4	井関富雄	口腔外科第1科	(複合型)プログラム責任者
5	小野圭昭 ※	障がい者歯科	院外研修責任者
6	高橋一也 ※	高齢者歯科	院内研修責任者
7	山本一世	保存修復科	指導歯科医
8	吉川一志 ※	"	指導歯科医
9	谷本啓彰	"	指導歯科医
10	保尾謙三	"	指導歯科医
11	岩田有弘 ※	"	副プログラム責任者
12	横田啓太	"	指導歯科医
13	森川裕仁	"	指導歯科医
14	岩崎和恵	"	指導歯科医
15	奥村瑳恵子	"	指導歯科医
16	前田博史	歯内治療科	指導歯科医
17	西川郁夫 ※	"	副プログラム責任者
18	池永英彰	"	指導歯科医
19	稲本雄之	"	指導歯科医
20	辻則正	"	指導歯科医
21	仲間ひとみ	"	指導歯科医
22	池澤遼一	"	指導歯科医
23	松尾望	"	指導歯科医
24	田口洋一郎 ※	歯周治療科	指導歯科医
25	津守紀昌	"	指導歯科医
26	山脇勲	"	指導歯科医
27	山内伸浩	"	指導歯科医
28	東仁	"	副プログラム責任者
29	嘉藤弘仁 ※	"	指導歯科医
30	今井一貴	"	指導歯科医
31	緒方智壽子	"	指導歯科医
32	小野高裕	高齢者歯科	指導歯科医
33	川本章代 ※	"	指導歯科医
34	奥野健太郎	"	指導歯科医
35	井上太郎	"	副プログラム責任者
36	楠尊行	"	指導歯科医
37	有川香織	"	指導歯科医
38	眞砂彩子	"	指導歯科医
39	田中順子	補綴咬合治療科(有歯)	指導歯科医
40	鳥井克典 ※	"	副プログラム責任者
41	佐藤正樹	"	指導歯科医
42	藤井孝政 ※	"	指導歯科医

No.	氏名	診療科名	役割
43	覺道昌樹	"	指導歯科医
44	山本真由	"	指導歯科医
45	安井由香	"	指導歯科医
46	松尾信至	"	指導歯科医
47	山本さつき ※	補綴咬合治療科(欠損)	指導歯科医
48	小正聡	"	副プログラム責任者
49	三野卓哉		指導歯科医
50	田代悠一郎	"	指導歯科医
51	乾志帆子	"	指導歯科医
52	坂井大吾	"	指導歯科医
53	西崎真理子	"	指導歯科医
54	吉田博昭	口腔外科第1科	指導歯科医
55	山田耕治 ※	"	副プログラム責任者
56	松本和浩	"	指導歯科医
57	松島由紀	"	指導歯科医
58	辻要	"	指導歯科医
59	姫嶋皓大	"	指導歯科医
60	竹信俊彦	口腔外科第2科	指導歯科医
61	窪寛仁	"	指導歯科医
62	藤井智子 ※	"	副プログラム責任者
63	本橋具和	"	指導歯科医
64	渡辺昌広	"	指導歯科医
65	窪田亮介	"	指導歯科医
66	井奥雄介	"	指導歯科医
67	西浦亜紀 ※	矯正歯科	副プログラム責任者
68	護邦英俊	"	指導歯科医
69	中山雄司	"	指導歯科医
70	安井憲一郎	"	指導歯科医
71	飯田拓二	"	指導歯科医
72	細山智加子	"	指導歯科医
73	有地淑子	歯科放射線科	指導歯科医
74	秋山広徳	"	副プログラム責任者
75	小滝真也	"	指導歯科医
76	野澤道仁	"	指導歯科医
77	福田元気	"	指導歯科医
78	阿部洋子	小児歯科	指導歯科医
79	園本美恵	"	指導歯科医
80	人見さよ子 ※	"	副プログラム責任者
81	西村貴子	"	指導歯科医
82	今瀧梨江	"	指導歯科医
83	池田まりあ	"	指導歯科医
84	青木翔	"	指導歯科医
85	百田義弘	歯科麻酔科	指導歯科医
86	真鍋庸三	"	指導歯科医
87	内田琢也 ※	"	副プログラム責任者
88	新井由起子	"	指導歯科医

No.	氏名	診療科名	役割
89	草野 薫 ※	口腔インプラント科	副プログラム責任者
90	森永 健三	〃	指導歯科医
91	池田 勇登	〃	指導歯科医
92	寺西 祐輝	〃	指導歯科医
93	田中 佑人 ※	障がい者歯科	副プログラム責任者
94	松川 綾子	〃	指導歯科医
95	糸田 昌隆	口腔リハビリテーション科	指導歯科医
96	永久 景那 ※	〃	副プログラム責任者

※＝単独型・複合型兼任



## 7. 募集・採用方法

- (1) 研修開始時期 : 2024年4月
- (2) 募集定員 : 120名
- (3) 募集方法 : 公募
- (4) 選考方法 : CBT本試験成績、小論文、面接、書類審査等により行う。
- (5) 選考結果 : マッチング組み合わせ結果により仮契約を行う。  
さらに第117回歯科医師国家試験の結果発表後、仮契約者のうちの合格者との間で本契約を行う。
- (6) マッチング利用の有無 : 有
- (7) 出願資格 : 以下のAとBに該当する者
  - A. 2024年3月1日以後に歯科医師免許を取得する者または2006年以降に歯科医師免許を取得し、過去に現行制度による臨床研修を中断・修了したことのない者
  - B. 歯科医師臨床研修マッチングプログラム参加者
- (7) 出願手続 : 大阪歯科大学附属病院HP参照 (<https://www.osaka-dent.ac.jp/hospital/boshuyoko.html>)  
出願希望者は当院HPの研修歯科医採用試験申込フォームに登録し、以下の書類等を「書留郵便」にて送付すること。
  - ① 研修歯科医申請願・受験票・写真票(所定様式)  
・研修歯科医申請願・写真票に貼付する顔写真は縦35～40mm、横24～30mm、上半身脱帽したもの
  - ② 最終学歴の卒業(見込)証明書
  - ③ 成績証明書
  - ④ CBT本試験成績  
・複写可  
・CBT未受験者は未受験理由書(A4)を提出
  - ⑤ 返信用封筒  
・長形3号封筒に出願者本人の住所氏名を記載の上、404円切手(書留郵便)を貼付のこと  
・受験票が2023年8月9日(水)までに当院から送付されない場合は、お問い合わせください。
- (8) 出願期間 : (申込フォーム登録) 2023年7月3日(月)～7月21日(金)  
(書類提出等) 2023年7月3日(月)～7月24日(月)必着
- (9) 試験日及び会場 : (日時) 2023年8月20日(日)  
(場所) 大阪歯科大学附属病院(大阪市中央区)
- (10) 書類等送付 : 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目5番17号  
問い合わせ先 大阪歯科大学附属病院 病院庶務課 卒後研修担当: 藤井・折田  
TEL: 06-6910-1577、FAX: 06-6943-8051  
Eメール: [sotsugo-kensyu@cc.osaka-dent.ac.jp](mailto:sotsugo-kensyu@cc.osaka-dent.ac.jp)

## 8. 当院での研修歯科医の処遇等[協力型(I)研修施設の処遇は各施設の規定等に従う]

- (1) 常勤又は非常勤の別 : 常勤
- (2) 時間外勤務 : あり
- (3) 当直 : なし
- (4) 研修手当 : 1,023円/時間(年平均時給換算)
- (5) 賞与 : なし
- (6) 通勤手当 : なし
- (7) 時間外・休日手当 : あり
- (8) 勤務時間 : 9:00～16:30
- (9) 有給休暇 : 10日
- (10) 休日 : 土、日、祝日(但し業務上の都合により、事前通告の上、休日を勤務日に振り替える場合あり)  
年末年始(12/29～1/4)、大学創立記念日(1/14)、大学昇格記念日(6/18)、  
年度末休日(3/29～31)、その他本学理事長が必要と認めた日
- (11) 宿舎 : なし
- (12) 病院内の部屋 : あり(個室なし)
- (13) 公的医療保険 : あり(日本私立学校振興・共済事業団)  
公的年金保険
- (14) 労災適用 : あり(国家・地方公務員災害補償法の適用:なし)
- (15) 雇用保険 : あり
- (16) 健康診断 : あり(年1回実施)
- (17) 歯科医師賠償責任保険 : 医療機関においても加入する。指定保険に加入要
- (18) 学会、研究会等への参加の可否 : 可(但し、本院が認めた場合以外、費用の支給なし)

## 9. 研修プログラム

### 9-1. プログラム概要

#### 歯科医師としての基本的価値観

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
2. 利他的な態度
3. 人間性の尊重
4. 自らを高める姿勢

#### 資質・能力

##### 1. 医学・医療における倫理性

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

##### 2. 歯科医療の質と安全の管理

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。

##### 3. 医学知識と問題対応能力

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

##### 4. 診療技能と患者ケア

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

##### 5. コミュニケーション能力

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

##### 6. チーム医療の実践

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

## 7.社会における歯科医療の実践

- ①健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ②地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

## 8.科学的探究

- ①医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ②科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③臨床研究や治験の意義を理解する。

## 9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢

- ①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ②同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌等を含む。)を把握する。

### 基本的診療業務1

- (1) 基本的診察・検査・診断・診療計画
- (2) 基本的臨床技能等
- (3) 患者管理
- (4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

### 基本的診療業務2

- (1) 歯科専門職の連携
- (2) 多職種連携、地域医療
- (3) 地域保健
- (4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

9-2. 基本的診療業務1. 基本的診療能力等

ユニット	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画					
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	診療において医療面接を实践する。	①～⑥を一連の流れとして20症例	指導歯科医の指導の下、研修歯科医が配当患者に対し診療を实践する。(患者配当制)	担当患者一名を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。	診療において、診察および医療情報を収集する。				
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	診療において検査の実施および結果を判断する。				
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	診療において歯科疾患を診断する。				
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	適切な治療法および他の選択肢を提示する。一口腔単位の治療計画を作成する。				
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。	患者・家族への必要な情報の提供し、説明と同意を取得する。				

ユニット	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<b>(2)基本的臨床技能等</b>					
<b>①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。</b>	自習・レポート作成(歯科疾患予防の知識) 食事指導、口腔清掃指導およびフッ化物の局所応用を実施する。	8症例	指導歯科医のもと実践する。 原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する	実践した診療行為を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
<b>②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。</b> <b>a. 歯の硬組織疾患</b> <b>b. 歯髄疾患</b> <b>c. 歯周病</b> <b>d. 口腔外科疾患</b> <b>e. 歯質と歯の欠損</b> <b>f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下</b>	a. 歯冠修復を基本とした歯の硬組織疾患への対応を実践する。(齲蝕治療) b. 歯髄保護、抜髄および感染根管治療を実践する c. 歯周基本治療および簡単な歯周外科を実践する d. 簡単な抜歯、切開および縫合を実践する。 e. 歯質欠損に対し歯冠修復を歯の欠損に対し補綴を実践する。 f. 嚥下機能検査や舌圧検査等を実践する。	a.5症例 b.3症例 c.5症例 d.3症例 e.4症例 f.2症例 合計22症例	指導歯科医のもと実践する。 原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する。	実施した診療行為を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
<b>③基本的な応急処置を実践する。</b>	疼痛に対する処置を実践する。 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する処置を実践する。 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する処置を実践する。	10症例	指導歯科医のもと実践する。 原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する	実施した診療行為を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
<b>④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。</b>	担当患者の血圧、脈拍および体温を測定し、状態を評価する。	5症例	指導歯科医の監督下で担当患者の診療を行い、必要に応じて実践する。	担当患者のバイタルサインを観察した場合1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
<b>⑤診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する。</b>	担当患者の診療時に適切に実施する。	20症例	指導歯科医のもと実践する。 原則として患者配当型とする。	担当患者一名を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
<b>⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。</b>	講義および講習会を受講 診療時事故、ヒヤリ・ハットが発生した場合は本附属病院マニュアルに則って対応する。	講義受講必須	指導歯科医は、診療中安心・安全に留意し、万一発生した場合はその対処について指導する。	万一生じた場合に1症例とする。 その他、診療室で生じた場合の見学も1症例とする。	レポートおよび報告書を作成し、A～Cの3段階評価、B以上で修了

ユニット	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(3)患者管理					
①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	自習(全身疾患の歯科診療上のリスク・服用薬剤の副作用に関する知識) 担当患者へ必要に応じ実施する。	各項目最低1症例以上、合わせて10症例	指導歯科医のもと実践する。原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する	担当患者一名を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	自習(医療連携に関する知識) 担当患者へ必要に応じ実施する。				
③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	血圧、脈拍、酸素飽和度、呼吸数などのモニタリングの実践する。(生体モニターの使用)				
④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	自習(歯科診療時の主な併発症・偶発症の知識) 担当患者へ必要に応じ実施する。				

ユニット	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供					
①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	自習・講義・SGD 患者のライフステージに応じた予防と口腔機能管理を実践する。	各項目最低1症例以上、合わせて4症例	指導歯科医のもと実践する。原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する	担当患者一名を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	患者の状態を評価する。 患者の状態に応じた診療を実践する。				
③在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。	在宅・老健施設等での診療を実践する。	1症例	指導歯科医のもと実践する。原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する	担当患者一名を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。

基本的診療業務2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

ユニット	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<b>(1) 歯科専門職の連携</b>					
① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	予防処置、口腔管理について歯科衛生士とケースカンファレンスを行う。 連携を図りながら口腔衛生管理を実践する	5症例	原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する	歯科衛生士と連携した患者一名あるいは、作製・装着した技工物を1症例とする。	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	自習(歯科技工士法・技工指示書作成) 技工指示書を作成する。 歯科技工士の役割を理解し、連携を図りながら技工物を作製する。	5症例			
③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	多職種連携、チーム医療に関する講義、講習会、文献検索を通してレポート作成。	レポート1作成	レポート作成を支援する。		レポートおよび口頭試問を行い、評価はA～Cの3段階で、B以上で修了
<b>(2) 多職種連携、地域医療</b>					
① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	講義・レポート作成を通して地域包括ケアシステムを理解する。	講義受講を必須			レポートおよび口頭試問を行い、評価はA～Cの3段階で、B以上で修了
② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。					
③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。	自習・講義・レポート作成 訪問歯科診療に参加する。	1症例	指導歯科医と共に、在宅、介護施設における多職種チームに参加する。レポート作成を支援する。	訪問診療を実践後、レポートおよび口頭試問を行った場合を1症例とする。	レポートおよび口頭試問を行い、評価はA～Cの3段階で、B以上で修了
④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	講義・レポート作成 訪問歯科診療に参加する。	1症例			
ユニット	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
<b>(3) 地域保健</b>					
① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	地域保健・福祉に関する講義を通してレポート作成	講義受講を必須	レポート作成を支援する。		レポートおよび口頭試問を行い、評価はA～Cの3段階で、B以上で修了
② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	保健所の活動に関する講義を通してレポート作成		レポート作成を支援する。		

ユニット	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解					
① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	法律、法令に関する講義、文献検索を通してレポート作成。	レポート1作成	レポート作成を支援する。		レポートおよび口頭試問を行い、評価はA～Cの3段階で、B以上で修了
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	保険診療を実践する。	30症例	原則として患者配当型とするが、症例配当型を併用する	保険診療を行い電子カルテへの入力を行った場合を1症例とする	目標達成の基準として、必要症例数以上を経験していることが必要。
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	法律、法令に関する講義、文献検索を通してレポート作成。	レポート1作成	レポート作成を支援する。		レポート、口頭試問を行い、評価はA～Cの3段階で、B以上で修了



9-3. 管理型臨床研修施設における専門的研修プログラム

1)保存修復科

【研修概要】

6か月間の講座内研修では、附属病院9階の保存修復科において、保存修復学臨床における医療面接、診療計画の立案、保存修復領域における基本的技術の習得、ホワイトニングを始めとする審美歯科技術の習得を目的とする。

講座においては、指導歯科医によるマネキン実習や臨床研修、学会研究発表のためのリハーサルへの参加、抄読会(英文の論文や臨床レポートなどを訳して討論する会)などによって、保存修復学への専門性を高める。

当講座は複数の学外機関との協力関係を持っており、講座員に対しては、水平位診療によるミラーテクニックの習得、レーザー治療研修会への参加など、各種研修会への参加が推奨されている。このような研修会の多くは、講座関係者であれば、無料もしくはディスカウントされた参加費での研修が可能である。

研修終了後も、大学院生としての入学、博士(歯学)号取得のための専攻生としての入学、研修医(非常勤)としての入局などによって、より高度な研修への道が開かれている。また、日本歯科保存学会に入会し、学会への参加および講座での研修を継続することによって、専門医の取得を目指すことも可能である。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
歯科医療の基幹となる齲蝕を始めとする硬組織疾患に対する処置を適切に行うため保存修復処置の基本についての知識、態度、および技能を習得する。 1.診察と診査・診断 【一般目標】 保存修復処置の適正な治療計画の立案を行うための診察と診査・診断の知識・技能・態度を習得する。 【行動目標】						
(1)問診を適切に聴取する。	① 主訴の聴取 ② 現病歴の聴取 ③ 既往歴の聴取	C-1(1)①	1症例	患者配当型 症例配当型	主観的情報および客観的情報の収集を行い、診断を行った場合を1症例として数える。	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)患者の背景を適切に聴取する。	① 家族歴の聴取 ② 患者の希望の聴取 ③ 解釈モデルの聴取	C-1(1)①				
(3)患歯の診査を適切に行う。 (視診、触診、打診、X線診、温度診、歯髄電気診、スタディモデルによる診査)	① 口腔内検査の実施	C-1(1)②				
(4)咬合状態を適切に診査する。	① 咬合状態の検査	C-1(1)③				
(5)診査結果を分析して適切な診断を行う。	① 得られた検査の分析 ② 問題点の抽出	C-1(1)④				

2.治療計画立案と再評価							
【一般目標】							
適切な保存修復処置を行うために必要な治療計画立案能力を身につける。							
【行動目標】							
(1)患歯に対する適切な治療計画を立てる。	① 患歯に対する治療計画の立案	C-1(1)⑤	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。	
(2)患者を中心とした一口腔単位の治療計画を立てる。	① 一口腔単位の治療計画の立案	C-1(1)⑤					
(3)他科(画像診断科、口腔外科、補綴科、歯内治療科、矯正科等)に対する依頼を適切に行う。	① 他科への依頼	C-1(1)⑤					
(4)治療期間と費用を明記する。	① 治療期間および費用の明記	C-1(1)⑥					
(5)患者に対して治療計画を分かりやすく説明し同意を得る。(インフォームド・コンセント)	① インフォームド・コンセントの獲得	C-1(1)⑥					
(6)施行された保存修復処置に対して適切に再評価する。	① 実施した保存修復処置の評価	C-1(2)②a					
3.切削の基本							
【一般目標】							
保存修復処置を行うために必要な基本的切削技術を習得する。							
【行動目標】							
(1)回転切削器具・手用切削器具を正しく選ぶ。	① 適切な回転切削器具の選択 ② 適切な手用切削器具の選択	C-1(2)②a	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。	
(2)患歯を切削するための適切な診療姿勢をとる。	① 適切な診療姿勢の確保	C-1(2)②a					
(3)直視下において適切に切削する。	① 直視下での切削	C-1(2)②a					
(4)鏡視下において適切に切削する。	① 鏡視下での切削	C-1(2)②a					
4.歯髄保護法(覆髄と裏層)							
【一般目標】							
保存修復処置に必要な歯髄保護法を習得する。							
【行動目標】							
(1)感染象牙質の識別を適切に行う(齶蝕検知液、ダイアグノデント等)。	① 齶蝕象牙質第一層の適切な除去	C-1(2)②a	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。	
(2)患歯の切削時において適切な歯髄保護対策をとる。	① 切削時における歯髄保護対策	C-1(2)②a	1症例				
(3)適切な覆髄を行う。	① 適切な覆髄法の実施	C-1(2)②a	1症例				
(4)適切な裏層を行う。	① 適切な裏層法の実施	C-1(2)②a	1症例				
(5)暫間的間接覆髄法(IPC)を適切に行う。	① IPC法の適切な実施	C-1(2)②a	1症例				

5.修復の補助法							
【一般目標】							
保存修復処置に必要な補助的処置について理解し習得する。							
【行動目標】							
(1)適切なラバーダム防湿法を行う。	① ラバーダム防湿法の適切な実施	C-1(2)②a	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。	
(2)適切な歯間分離法を行う。	① 歯間分離法の適切な実施	C-1(2)②a	1症例				
(3)適切な歯肉排除法を行う。	① 歯肉排除法の適切な実施	C-1(2)②a	1症例				
(4)適切な隔壁法を行う。	① 隔壁法の適切な実施	C-1(2)②a	1症例				
6.コンポジットレジン修復							
【一般目標】							
前歯部および臼歯部のコンポジットレジン修復法について習得する。							
【行動目標】							
(1)適切なコンポジットレジン修復窩洞を形成する。	① 適切なコンポジットレジン修復窩洞の形成	C-1(2)②a	前歯部・臼歯部合計2症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、2例以上経験していることが必要。	
(2)コンポジットレジンと歯質との接着操作を適切に行う。	① 適切なコンポジットレジン接着操作の実施	C-1(2)②a					
(3)コンポジットレジン適切に圧接・填塞する。	① 適切なコンポジットレジン接着操作の実施	C-1(2)②a					
(4)コンポジットレジンの研磨を適切に行う。	① コンポジットレジンの適切な研磨	C-1(2)②a					
(5)コンポジットレジン修復の予後について患者に適切に説明する。	① 患者に対するコンポジットレジン修復の予後についての適切な説明	C-1(2)②a					
7.ガラスイオノマーセメント修復							
【一般目標】							
ガラスイオノマーセメント修復法について習得する。							
【行動目標】							
(1)適切なガラスイオノマーセメント修復窩洞を形成する。	① 適切なガラスイオノマーセメント修復窩洞の形成	C-1(2)②a	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。	
(2)ガラスイオノマーセメントの練和を適切に行う。	① 適切なガラスイオノマーセメントの練和	C-1(2)②a					
(3)ガラスイオノマーセメントを適切に填塞する。	① 適切なガラスイオノマーセメント填塞操作の実施	C-1(2)②a					
(4)ガラスイオノマーセメントの研磨を適切に行う。	① ガラスイオノマーセメントの適切な研磨	C-1(2)②a					
(5)ガラスイオノマーセメント修復の予後について患者に適切に説明する。	① 患者に対するガラスイオノマーセメント修復の予後についての適切な説明	C-1(2)②a					

8.インレー修復									
【一般目標】									
メタルインレーおよびコンポジットレジンインレー修復法について習得する。									
【行動目標】									
(1)メタルインレー窩洞とコンポジットレジンインレー窩洞の違いを説明できる。	①メタルインレー窩洞とコンポジットレジンインレー窩洞の知識の習得			1レポート					
(2)適切なインレー修復窩洞を形成する。	①適切なインレー修復窩洞の形成	C-1(2)②a		1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)			
(3)適切な印象採得を行う。	①インレー窩洞の適切な精密印象採得	C-1(2)②a							
(4)適切な咬合採得を行う。	①インレー窩洞の適切な咬合採得	C-1(2)②a							
(5)適切な作業用模型を作製する。	①メタルインレー修復の適切な作業用模型作製	C-1(2)②a							
(6)適切な蠟型採得を行う。	①メタルインレー修復の適切な蠟型採得	C-1(2)②a		1症例			治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)		
(7)適切な埋没・鑄造を行う。	①メタルインレー修復の適切な埋没・鑄造操作	C-1(2)②a							
(8)インレー体の形態修正・研磨を適切に行う。	①メタルインレー修復の適切な形態修正・研磨(技工室)	C-1(2)②a		1症例				治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	
(9)口腔内でのインレー体の調整を適切に行う。	①チェアサイドにおけるインレー体の適切な調整	C-1(2)②a							
(10)合着用セメントを適切に練和する。	①インレー修復の適切な合着用セメントの練和	C-1(2)②a							
(11)インレー体の患歯への合着を適切に行う。	①インレー修復の適切な合着操作	C-1(2)②a							
(12)インレー修復の予後について患者に適切に説明する。	①患者に対するインレー修復の予後についての適切な説明	C-1(2)②a							
9.レーザー治療									
【一般目標】									
保存修復領域におけるレーザーの応用について理解し習得する。									
【行動目標】									
(1)各種レーザーの特徴と応用について説明できる。	①歯科用レーザーについての知識の習得			1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)			
(2)Er:YAGレーザーによる歯の切削を適切に行う。	①Er:YAGレーザーによる適切な歯の切削	C-1(2)②a		1症例					
(3)半導体レーザーによる知覚過敏処置を適切に行う。	①半導体レーザーによる適切な知覚過敏処置の実施	C-1(2)②a		1症例					
						目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要((5)~(8)は技工室における見学でも可)。ただし(1)については最低1例以上のレポート作成が必要。			
						目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要((2)、(3)は介助でも可)。ただし(1)については最低1例以上のレポート作成が必要。			

10.歯の漂白						
【一般目標】						
生活歯および失活歯の漂白について習得する。						
【行動目標】						
(1)患者の要求を理解した上で、各種漂白について適切に説明できる。	① 各種漂白法(オフィスブリーチ、ホームブリーチ、ウォーキングブリーチ)についての患者への説明	C-1(2)②a	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。ただし(2)については最低1例以上のレポート作成が必要。
(2)歯の漂白の適応症と禁忌症について説明できる。	① 歯の漂白法(オフィスブリーチ、ホームブリーチ、ウォーキングブリーチ)についての知識の習得		1レポート			
(3)漂白処置の前準備を適切に行う。	① 各種漂白処置における適切な前準備の実施	C-1(2)②a	1症例			
(4)歯の漂白に必要な器材・薬剤を適切に準備する。	① 各種漂白処置における適切な薬剤の準備	C-1(2)②a				
(5)歯の漂白を適切に行う。	① 各種漂白処置の適切な実施	C-1(2)②a				
(6)歯の漂白の予後およびメンテナンスについて適切に説明できる。	① 患者に対する漂白処置の予後およびメンテナンスについての適切な説明	C-1(2)②a				

2) 歯内治療科

【研修概要】

歯内治療は、優れたGP(一般歯科臨床医)になるために、まず第一に身につけなければならない臨床科目である。歯内治療に関する豊富な知識と卓越した技術(スキル)を有することによって、日常の臨床において疼痛や腫脹など、どのような症状を有する患者に対しても自信を持って対応することができる。

6か月間の歯内治療科研修は、病院本館9階で、ベーシックコースとして歯内治療領域の疾患を有する患者の診査・診断から治療方針の決定、さらには適切な治療処置および経過観察までを行うことになる。また、アドバンスコースとして、Ni-Ti製ロータリーファイルによる根管拡大・形成および歯科用マイクロスコープを使用した種々な症例の歯内治療研修を行う。

講座においては、研修医は、専任医員、大学院生および病院医員とともに抄読会(月2回)、症例検討会(現行・年4回)に参加して歯内治療関係の知識の補充を行い、また治療技術の評価を受ける。

臨床研修終了後は、本人の希望によって大学院生、病院医員および研修医(非常勤)として入局し更なる専門的知識や技能を習得することもでき、歯科保存専門医を目指すことも可能である。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
歯の硬組織、歯髄組織、根尖性歯周組織に生じた疾患における急性炎症症状に対する救急処置ならびに慢性炎症に対する適切な治療処置を実施できる知識及び技能を習得する。						
1. 歯髄疾患の診察・検査						
【一般目標】						
歯髄疾患の診察と検査に必要な知識と技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 患者に問診ができる。	① 主訴の聴取 ② 現病歴、既往歴の聴取 ③ 家族歴の聴取	C-1(1)①	1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 歯髄疾患の診察に必要な診察ができる。	① 歯髄疾患の診察に必要な診察の実施	C-1(1)②				
(3) 歯髄疾患に必要な検査ができる。	① 歯髄疾患に必要な検査の実施	C-1(1)③				
(4) 歯髄疾患の病態が把握できる。	① 歯髄疾患の病態の把握	C-1(1)④				
2. 根尖性歯周組織疾患の診察・検査						
【一般目標】						
根尖性歯周組織疾患に必要な知識と技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 患者に問診ができる。	① 主訴の聴取 ② 現病歴、既往歴の聴取 ③ 家族歴の聴取	C-1(1)①	1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 根尖性歯周組織疾患の診断に必要な診察と検査ができる。	① 根尖性歯周組織疾患の診断に必要な診察と検査の実施	C-1(1)②③				
(3) 根尖性歯周組織疾患の病態が把握できる。	① 根尖性歯周組織疾患の病態の把握	C-1(1)④				

3.歯髄疾患の診断・鑑別診断							
【一般目標】							
歯髄疾患の診察と検査に基づいて正確に歯髄疾患を診断・鑑別診断できる能力を身につける。							
【行動目標】							
(1)歯髄疾患の臨床的分類を正確に身につける。	① 歯髄疾患の臨床的分類の説明			1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。ただし(1)の行動目標については最低1例以上のレポートを作成していることが必要。
(2)歯髄組織の保存の可否を適切に判断できる。	① 歯髄組織の保存の可否の適切な判断	C-1(1)④		1 症例			
(3)待機的診断の可否を判断できる。	① 待機的診断の可否の判断						
(4)患者に病態を説明できる。	① 患者への病態の説明	C-1(1)⑥					
4.根尖性歯周組織疾患の診断・鑑別診断							
【一般目標】							
根尖性歯周組織疾患の診察と、検査に基づいて正確に根尖性歯周組織疾患を診断・鑑別診断できる能力を身に付ける。							
【行動目標】							
(1)根尖性歯周組織疾患の臨床的分類を説明できる。	① 根尖性歯周組織疾患の臨床的分類の説明			1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。ただし(1)の行動目標については最低1例以上のレポートを作成していることが必要。
(2)歯の保存の可否を適切に判断できる。	① 歯の保存の可否の適切な判断	C-1(1)④		1 症例			
(3)患者に病態を説明できる。	① 患者への病態の説明	C-1(1)⑥					
(4)抗菌剤等の投薬を処方できる。	① 抗菌剤等の投薬の処方	C-1(2)②b					
5.歯内疾患に対する治療計画							
【一般目標】							
歯髄疾患及び根尖性歯周組織疾患に対する適切な治療計画を立案するために必要な能力を身につける。							
【行動目標】							
(1)歯髄疾患に対する適切な治療計画を立てることができる。	① 歯髄疾患に対する適切な治療計画の立案	C-1(1)⑤		1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)根尖性歯周組織疾患に対する適切な治療計画を立てることができる。	① 根尖性歯周組織疾患に対する適切な治療計画の立案	C-1(1)⑤					
(3)患者に治療方針を説明することができる。	① 患者への治療方針の説明	C-1(1)⑥					

6.歯髄保存療法							
【一般目標】 歯髄組織を保存するための処置に必要な知識と技能を習得する。							
【行動目標】							
(1) 歯髄保存の概念を十分に理解することができる。	① 歯髄保存の概念の十分な理解			1レポート			
(2) う蝕の処置を適切にできる。	① う蝕処置の適切な実施	C-1(2)②b		1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。ただし(1)の行動目標については最低1例以上のレポートを作成していることが必要。
(3) 鎮痛・消炎処置を適切にできる。	① 鎮痛・消炎処置の適切な実施	C-1(2)②b					
(4) 覆髄剤の選択ができる。	① 覆髄剤の適切な選択	C-1(2)②b					
(5) 覆髄処置を適切にできる。	① 覆髄処置の適切な実施	C-1(2)②b					
(6) 露髄部の適切な処置ができる。	① 露髄部の適切な処置の実施	C-1(2)②b					
(7) 直接覆髄処置を適切にできる。	① 直接覆髄処置の適切な実施	C-1(2)②b					
7.歯髄除去療法							
【一般目標】 歯髄除去の意義を十分に理解し、一部除去、全部除去(抜髄)に必要な知識と技能を習得する。							
【行動目標】							
(1) 歯髄除去(抜髄)のためのインフォームド・コンセントを行える。	① 歯髄除去(抜髄)のためのインフォームド・コンセントの実施	C-1(1)⑥		1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 適切な麻酔法を選択、実施できる。	① 適切な麻酔法を選択、実施	C-1(2)②b					
(3) 一部除去の目的と術式を把握できる。	① 一部除去の目的の把握 ② 一部除去の術式の把握						
(4) 髄室開拓を正確に実施できる。	① 髄室開拓の正確な実施	C-1(2)②b					
(5) 根管長測定を正しく行うことができる。	① 根管長測定を正しく行う。	C-1(2)②b					
(6) 抜髄時の歯髄切断位置を正確に決定することができる。	① 抜髄時の歯髄切断位置の正確な決定	C-1(2)②b					
(7) 根管壁の有機組織の除去ができる。	① 根管壁の有機組織の除去	C-1(2)②b					



8.根尖性歯周組織疾患の治療							
【一般目標】							
根尖性歯周組織疾患の原因を十分に把握し、理解して、感染根管治療処置を実施するための基本的な知識と技能を習得する。							
【行動目標】							
(1) 感染根管の概念とその継発症を説明することができる。	① 感染根管の概念とその継発症の説明			1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。ただし(1)、(2)、(3)、(6)の行動目標については最低1例以上のレポートを作成していることが必要。
(2) 感染根管の成立機序を説明することができる。	① 感染根管の成立機序の説明						
(3) 感染根管治療の概念を説明することができる。	① 感染根管治療の概念の説明						
(4) 根管の機械的清掃を適切に実施することができる。	① 根管の機械的清掃の適切な実施	C-1(2)②b		1症例			
(5) 根管の化学的清掃を適切に実施することができる。	① 根管の化学的清掃の適切な実施	C-1(2)②b					
(6) 根管のスミヤー層について説明することができる。	① 根管のスミヤー層についての説明			1レポート			
(7) 根管消毒剤の選択とその処置を行うことができる。	① 根管消毒剤の選択とその処置の実施	C-1(2)②b					
(8) 根管内細菌検査を行うことができる。	① 根管内細菌検査の実施	C-1(2)②b					
(9) 仮封処置の選択とその処置を適切に行うことができる。	① 仮封処置の選択とその処置の実施	C-1(2)②b		1症例			
(10) 急性症状に適切な対応ができる。	① 急性症状への適切な対応	C-1(2)③					
(11) 抗菌剤などの処方が適切にできる。	① 抗菌剤などの処方の適切な実施	C-1(2)②b					
9.根管充填							
【一般目標】							
根管充填の目的を正しく理解し、適切な処置に必要な基本的知識と技法を習得する。							
【行動目標】							
(1) 根管充填の時期を正しく判断できる。	① 根管充填の時期の正しい判断	C-1(2)②b			患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 根管充填材(剤)を選択することができる。	① 根管充填材(剤)の選択	C-1(2)②b					
(3) アピカル・エンドを正確に把握している。	① アピカル・エンドの正確な把握	C-1(2)②b					
(4) 側方加圧根管充填法を正しく実施できる。	① 側方加圧根管充填法の正しい実施	C-1(2)②b		1症例			
(5) 熱可塑性根管充填法を正しく実施できる。	① 熱可塑性根管充填法の正しい実施	C-1(2)②b					
(6) 根管充填後の患歯の安静を図れる。	① 根管充填後の患歯の安静を図る。	C-1(2)②b					
(7) 根管充填後における患歯の治療の様相を説明できる。	① 根管充填後における患歯の治療の様相の説明	C-1(2)②b					

10.外科的歯内治療						
【一般目標】						
根管処置が奏効しない根尖病変に対して外科的処置を行うための基本的な知識と技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 根管処置に対する評価ができる。	① 根管処置に対する評価の実施	C-1(2)②b	1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 外科的処置を適切に選択することができる。	① 外科的処置の適切な選択	C-1(2)②b				
(3) 外科的処置が必要な状況について患者に説明することができる。	① 外科的処置が必要な状況についての患者への説明	C-1(1)⑥				
(4) 外科的歯内治療を行うことができる。	① 外科的歯内治療の実施	C-1(2)②b				
(5) 投薬の処方を適切に行うことができる。	① 投薬の処方の適切な実施	C-1(2)②b				
11.顕微鏡を用いた歯内治療						
【一般目標】						
実体顕微鏡下で歯内治療を実施するための知識と技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 実体顕微鏡下で歯の破折を診断できる。	① 実体顕微鏡下での歯の破折の診断	C-1(1)③	1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 実体顕微鏡下で根管口を探索できる。	① 実体顕微鏡下での根管口探索の実施	C-1(2)②b				
(3) 実体顕微鏡下で髄室・髄床底の穿孔を探索できる。	① 実体顕微鏡下での髄室・髄床底穿孔探索の実施	C-1(2)②b				
(4) 実体顕微鏡下で穿孔部の処置ができる。	① 実体顕微鏡下での穿孔部の処置	C-1(2)②b				
(5) 実体顕微鏡下で根管内破折器具の探索と除去ができる。	① 実体顕微鏡下での根管内破折器具の探索と除去	C-1(2)②b				

### 3) 歯周治療科

#### 【研修概要】

歯科医師国家試験合格おめでとうございます、皆さんはこれから歯科医師としての第一歩を踏み出すわけですが、患者さんから信頼される臨床家としてさらなる研鑽が必要です。これからは、従来、講義などで一方的に知識を習得していたのとは異なり、研修を通じて自分自身で考え、学んでいく必要があります。さまざまな症例を通じて研鑽を積み重ね、向上していくことによって、広い視野を持った優れた臨床家として活躍していけるようになります。

歯周疾患は、中高年の大半が罹患し、糖尿病や心臓・血管疾患など全身疾患との関係も注目されている、国民の健康にかかわる重要な歯科疾患の一つです。近年、一般の人々の歯周治療に対する関心も高く、歯周治療科での卒後研修は、大変実りあるものになると思います。当科の研修において、歯周基本治療の理論および実践に加え、歯周外科治療も含めた実際の歯周治療の概要が理解できるようになります。

さらに、研修期間を通じて歯周治療に興味を持ち、より専門的に学びたい研修歯科医には、大学院生、専攻生、研修医(非常勤)さらには歯周病認定医、歯周病専門医への道も開けています。

#### 【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
歯周基本治療で始まり、メンテナンス治療へと移行する歯周病治療に必要な基本的技術を身につける。						
1. 歯周治療のための診査と検査						
【一般目標】						
歯周治療の診断と適正な治療計画の立案を行うため、診査と検査に必要な技術と態度を習得する。						
【行動目標】						
(1) 口腔外の診察を適正に行う(顔面、頭頸部、顎関節)	① 口腔外の診査および評価	C-1(1)②	1 症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 口腔内の診査を適正に行う(歯肉、滲出液、排膿、出血、歯周ポケット、アタッチメントレベル、付着歯肉の幅、歯の動揺、プラーク、歯石、食片圧入など)	① 口腔内の診査	C-1(1)③				
(3) 模型(研究用模型)からの必要な情報(咬合関係、歯列の連続性、歯の動揺による歯列異常)を収集する。	① 歯列の評価	C-1(1)②				
(4) エックス線検査の依頼を正しく記載する。	① エックス線検査の依頼を行う	C-1(1)③				
(5) エックス線検査(読像)を適正に行う。(歯槽骨、歯根膜腔の状態など)	① エックス線検査の評価	C-1(1)③				

2.診断と治療計画						
【一般目標】						
正確な診断と予後の判定を含めた治療計画の立案に必要な能力を身につける。						
【行動目標】						
(1)一口腔単位の診療計画を立てる。	① 一口腔単位の適正な診療計画の立案	C-1(1)⑤	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)治療計画の順序を正しく計画し、記載する。	① 治療計画の順序の計画 ② 治療計画の順序の記載	C-1(1)⑤				
(3)歯周組織の症状、診断及び治療計画をわかりやすく説明し同意を得る。(インフォームドコンセントの実施)	① 検査結果等を踏まえた診断の上、病状や治療計画などを患者に説明し、インフォームドコンセントを取得する	C-1(1)④⑥				
3.基本治療						
【一般目標】						
計画された歯周基本治療の技術を習得する。						
【行動目標】						
(1)歯周疾患の急性症状の診断と処置を実践する。	① 適正な処置の計画と実践	C-1(2)③	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)適切なブラークコントロールの指導を実践する。	① 適正なブラッシング方法の選択	C-1(2)①	1症例			
(3)適切なスクレーピング・ルートプレーニングを実践する。	① 部位による器具の選択と処置の実践	C-1(2)②c	1症例			
(4)症例により、歯周ポケット搔爬、咬合機能回復処置、象牙質知覚過敏処置、生活習慣、悪習癖の改善などを実践する。	① 部位・症状による適正な術式の選択と実施	C-1(2)②a,c	1症例			
4.基本治療後の再評価						
【一般目標】						
歯周基本治療後に治療効果の有無や以後の治療計画の妥当性の適否などについて検討する能力を習得する。						
【行動目標】						
(1)診査と検査を実践する。	① 口腔内の診査および検査	C-1(1)③	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)歯周基本治療の効果を評価する。	① 検査結果に基づいた評価	C-1(1)③	1症例			
(3)以後の治療計画の修正の有無を検討する。	① 評価に基づいた治療計画の変更の有無を判断する	C-1(1)⑤	1症例			
5.歯周外科治療						
【一般目標】						
計画された歯周外科治療の技術を習得する。						
【行動目標】						
(1)歯周外科手術の診療補助を適切にする。	① 診療の補助	C-1(2)②c	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)簡単な歯周外科手術をする。	① 歯肉切除術 ② 歯肉剥離搔爬術	C-1(2)②c				
(3)各種歯周外科手術の適応症を診断する。	① エックス線検査とポケット検査を行い歯周外科手術の適応を診断する					

6.歯周治療における咬合治療						
【一般目標】						
計画された歯周治療における咬合治療の技術を習得する。						
【行動目標】						
(1)咬合調整・歯冠形態修正をする。	① 早期接触部位を診断し咬合調整を行う	C-1(2)②c	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)症例により暫間固定、永久固定、ブラキシズムの処置などをする。	① ブラキシズムの処置 ② 補綴装置作製	C-1(2)②c				
7.メンテナンス治療前の再評価とメンテナンス治療						
【一般目標】						
すべての歯周治療終了後の効果进行评估し、メンテナンスまたはSPTを習得する。						
【行動目標】						
(1)診査と検査を実践する。	① 口腔内診査	C-1(1)③	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)すべての歯周治療の効果を評価する。	① エックス線検査 ② ポケット検査	C-1(1)③	1症例			
(3)適切なメンテナンスまたはSPTを行う。	① スケーリング ② PMTC	C-1(2)①,C-1(2)②c	1症例			

4)高齢者歯科

【研修概要】

高齢者歯科の研修は、附属病院6階の高齢者歯科において6か月間行います。75歳以上の患者を対象とし、補綴治療を主体とした総合的診療計画の立案と基本的技術の習得を目的としています。超高齢社会といえる現在、歯科医療における高齢患者の割合は日々増加しています。

高齢者は有病率が高く、全身的疾患への配慮や患者のペースに合わせた治療が必要であり、相互の信頼関係の構築は一層重要であります。クラウンブリッジ、局部床義歯、総義歯および顎補綴などの補綴治療全般の専門的な技術の習得はもちろん、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸外来を通して患者へのラポール構築や隣接医学の知識を学びます。加えて、病院外の施設への在宅歯科診療では、入院患者や施設入居者の口腔ケアから義歯製作までをベッドサイドで行います。

研究面においては、症例報告・抄読会・学会での研究発表のためのリハーサルに参加します。研修終了後、さらに高齢者歯科医療を専攻したい場合には研修医として、また、大学院生として研鑽を積み、日本補綴歯科学会の専門医、老年歯科学会の専門医、認定医の資格取得が可能です。

時代のニーズに最も近い高齢者歯科で、高齢者のQOL向上のために私たちと一緒に学びませんか。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
高齢化社会に対応できるように、高齢者に対する歯科治療についての知識、態度及び技能を習得する。						
1.高齢者の治療計画の立案						
【一般目標】						
高齢患者のQOLの向上のために、総合的な治療計画が立案できる能力を習得する。						
【行動目標】						
(1)高齢者の身体的・精神的・心理的特徴を理解する。	① 高齢者の身体的・精神的・心理的特徴の理解	c1(1)①	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)口腔外検査(身体、顎関節、咀嚼筋)を適切に行う。	① 口腔外検査(身体、顎関節、咀嚼筋)の評価	c1(1)②				
(3)口腔内検査(残存歯、歯周組織、欠損部位、咬合関係)を適切に行う。	① 口腔内検査(残存歯、歯周組織、欠損部位、咬合関係)の評価	c1(1)②				
(4)エックス線検査を適切に行う。	①エックス線検査の評価	c1(1)③				
(5)残存歯の状態を適正に評価する。	①残存歯の評価	c1(1)②、c1(1)③				
(6)既存の補綴装置を適正に評価する。	①既存補綴装置の評価	c1(1)②、c1(1)③				
(7)疾病に対する患者の認識度を理解する。	①疾病に対する患者の認識度の評価	c1(1)②、c1(1)③				
(8)個々の患者に応じた治療計画をたてる。	①患者に応じた治療計画の立案	c1(1)⑤				

2.高齢者の総合歯科治療						
【一般目標】						
高齢者における一般的な歯科疾患に対応するために、高頻度に遭遇する症例に対して必要な臨床技能を身につける。						
【行動目標】						
(1)う蝕の基本的な治療を実践する。	①う蝕処置	c1(2)②a,e	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)歯髄疾患の基本的な治療を実践する。	①歯内治療	c1(2)②b				
(3)歯周疾患の基本的な治療を実践する。	①歯周基本治療	c1(2)②c				
(4)咬合、咀嚼障害の基本的な治療を実践する。	① 歯冠補綴治療 ② 欠損補綴治療	c1(2)②e,f				
3.在宅歯科治療						
【一般目標】						
要介護または寝たきり患者の自立支援とQOLの向上のために、在宅歯科診療の意義を理解し、基本的な知識と技術を習得する。						
【行動目標】						
(1)要介護または寝たきり高齢者の身体的・精神的・心理的特徴を理解する。	① 要介護者の身体的特徴の評価 ② 要介護者の精神的特徴の評価 ③ 要介護者の心理的特徴の評価	c1(1)①, c1(1)②, c1(3)①, c1(3)②	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)要介護または寝たきり高齢者の全身及び局所の検査を適正に行う。	① 要介護者の全身評価 ② 要介護者の局所評価	c1(1)②, c1(1)③				
(3)在宅歯科治療の計画を立案する。	①在宅歯科治療計画の立案	c1(1)⑤				
(4)在宅歯科治療の準備を実践する。	①在宅歯科治療の準備の実施	c1(4)③				
(5)基本的な在宅歯科治療を実践する。	①在宅歯科治療の実施	c1(4)①, c1(4)③				
4.高齢者の口腔ケア						
【一般目標】						
高齢者の口腔内衛生環境の向上のために、口腔ケアの意義を理解し、基本的な知識と技術を習得する。						
【行動目標】						
(1)口腔ケアの必要性を理解する。	①口腔ケア必要性の評価	c1(1)①, c1(1)②, c1(1)③, c2(1)①	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)口腔ケアの必要性を説明し動機づけを行う。	①口腔ケア必要性の説明	c1(1)⑥, c2(1)①				
(3)基本的な口腔ケアプランをたてる。	①口腔ケアプランの立案	c1(1)⑤, c2(1)①				
(4)口腔ケアの基本的な手順を説明する。	①口腔ケアの手順説明の実施	c1(1)⑥, c2(1)①				
(5)基本的な口腔ケアの指導技術を習得する。	①口腔ケアの指導の実施	c1(2)①, c1(4)①, c2(1)①				

5)補綴咬合治療科(有歯)

【研修概要】

有歯補綴咬合学講座では歯科医療の根幹をなす咬合を扱うため、従来から、下記に示す研修プログラムの骨子に基づき複数年研修を実施している。

(研修プログラムの骨子)

1. 患者と歯科医師をはじめとした医療スタッフとのラポールを確立する。
2. 患者接遇、医療面接ができる。
3. 患者に十分な医療情報を与え、わかりやすい治療を目指す。
4. 全人的医療に基づく総合的な診療計画の立案ができる。
5. 臨床に則した実践的な研修を行う。
6. EBM、EBD、POSに基づいた説明と治療ができる。
7. クラウンブリッジ、義歯など補綴領域にとどまらず、インプラント補綴、スポーツ歯科、審美歯科、摂食・嚥下など多岐にわたる知識や技能を習得することを目指す。
8. 講座内や専門学会での症例報告の発表や専門医の申請を目指す。

6か月間の臨床研修では、研修プログラム骨子のうち1～6の基本的、基礎的な部分について、臨床研修指導医が、丁寧にしかもわかりやすく指導する。

研修終了後も引き続き研修プログラム骨子に基づき、専門性を高めるとともに、多くの知識と技能を習得するため、関連病院、施設での研修、大学院、専攻生、研修医(非常勤)のコースなどを設定し、生涯研修をバックアップしている。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
歯科医師と患者の相互がわかりあえる治療目標を共有し、安心と信頼が得られる治療を目指すために必要な補綴咬合治療に関する基本知識や技能を習得する。						
1.補綴咬合治療(口腔リハビリテーション)のための診察と検査						
【一般目標】						
補綴咬合治療(口腔リハビリテーション)に必要な診察および検査について、基本的知識、技能および態度を身につける						
【行動目標】						
(1)全身の診察ができる(表情、体格、バイタルサイン、精神状態など)。	① 全身の診察 ② 評価 ③ 説明・情報提供	C-1(2)④	5症例	患者配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。
(2)口腔外の局所的診察ができる(頭頸部領域の視診、触診、打診、聴診など)。	① 口腔外の局所的診察 ② 評価 ③ 説明・情報提供	C-1(1)②	5症例			
(3)口腔内の局所的診察ができる(歯、歯周組織、咬合状態、顎堤の吸収度など)。	① 口腔内の局所的診察 ② 評価 ③ 説明・情報提供	C-1(1)②	5症例			
(4)研究用模型を用いた模型検査ができる。	① 研究用模型の検査 ② 評価 ③ 説明・情報提供	C-1(1)③	5症例			
(5)適切な画像検査の選択と読影ができる(デンタル、パノラマ、CT、MRIなど)。	① 各種画像検査 ② 評価 ③ 説明・情報提供	C-1(1)③	5症例			



2.POSに基づいたカルテの記載						
【一般目標】						
POSに基づいたカルテの記載法を習得する。						
【行動目標】						
(1)プロブレムリストを挙げることができる。	① プロブレムリストの作成 ② プロブレムリストの順位性	C-1(1)⑤	5症例	患者配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。
(2)初期治療計画が立案できる。	① 初期治療計画の立案 ② 初期治療計画の説明	C-1(2)⑤				
(3)SOAPで時系列にカルテの記載ができる。	① SOAPによる電子カルテ記載	C-1(2)⑤				
3.支台築造						
【一般目標】						
支台築造の臨床的意義を理解し、基本術式を習得する。						
【行動目標】						
(1)支台歯の状態によって、適切な支台築造法を選択することができる。	① 支台歯の状況把握 ② 支台築造法の選択 ③ 支台築造法の説明	C-1(2)②e	5症例	患者配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。
(2)適切なポスト孔、窩洞の形成および印象採得をすることができる。	① 築造窩洞の形成 ② 印象採得	C-1(2)②e				
(3)支台築造の試適、調整および装着をすることができる。	① 支台築造の試適、調整 ② 支台築造の装着	C-1(2)②e				
4.クラウンブリッジによる補綴処置						
【一般目標】						
クラウンブリッジの臨床的意義を理解し、基本術式を習得する。						
【行動目標】						
(1)機能的、生物学的、力学的、審美的および材料学的要件を考慮し、クラウンブリッジを設計できる。	① 支台歯、その他の状況把握 ② 支台装置の選択 ③ ブリッジの設計	C-1(2)②e	5症例	患者配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。
(2)適切な支台歯の形成および印象採得をすることができる。	① 各種補綴装置の支台歯形態 ② 支台歯形成 ③ 印象採得	C-1(2)②e				
(3)クラウンブリッジの試適、調整および装着をすることができる。	① 補綴装置の試適、調整 ② 補綴装置の装着	C-1(2)②e				

5.プロビジョナルレストレーション						
【一般目標】						
プロビジョナルレストレーションによる最終補綴装置の設計の方法を習得する。						
【行動目標】						
(1)機能性、審美性、清掃性などを考慮し、プロビジョナルレストレーションの製作ができる。	① プロビジョナルレストレーションの製作、装着	C-1(2)②e	5症例	患者配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。
(2)治療過程におけるプロビジョナルレストレーションの形態修正およびその評価ができる。	① プロビジョナルレストレーションの形態修正、調整	C-1(2)②e				
(3)プロビジョナルレストレーションから得られた情報を最終補綴装置に再現することができる。	① プロビジョナルレストレーションの評価 ② 最終補綴装置への移行	C-1(2)②e				
6.補管的術後治療・SPT (Supportive therapy)						
【一般目標】						
術後の指導、管理、トラブル時の対応が説明できる。						
【行動目標】						
(1)補綴装置装着後の経過観察、チェックができる。	① 補綴装置装着後の経過観察 ② チェック、検査項目	C-1(2)②e	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3症例以上経験していることが必要。ただし、(1)~(3)の行動目標については症例配当型の場合、最低1症例以上のレポートを作成していることが必要。
(2)問題発生時にその原因を把握し、説明ができる。	① 問題点の抽出 ② 原因の把握 ③ 説明	C-1(2)②e				
(3)問題発生時に補綴学的対応ができる。	① 補綴学的対応	C-1(2)②e				

6)補綴咬合治療科(欠損)

【研修概要】

6か月間の講座内研修では病院7階の補綴咬合治療科にて、補綴臨床における総合的診療計画の立案と基本的技術の習得が主目的となる。

補綴咬合治療科では、有歯補綴咬合学講座と我々の欠損歯列補綴咬合学講座が担当し、クラウン・ブリッジ、局部床義歯、総義歯の補綴全般の補綴治療や顎関節症の咬合治療も行っている。研修歯科医は指導歯科医が行う補綴臨床における専門的な技術と態度をチェアサイドで担当医として参画し、補綴治療の効果を知ると同時に治療を介しての医師と患者との信頼関係の構築について学ぶ。

有床義歯の容易な補綴ケースについて、2～3症例を初診から補綴装置の製作・装着から調整まで自らがを行い、経験症例として報告する。

一方講座においては、クリニカル・カンファレンス(症例検討会)や抄読会、指導歯科医による講義、学会研究発表のためのリハールなどの講座会に参加し、補綴歯科学の専門性を高める。

研修修了後も、大学院生としての入学、博士(歯学)の取得のための専攻生への道、研修医(非常勤)としての入局などより高度な補綴研修の継続も可能である。また、補綴歯科学会に入会し、補綴専門医を目指す研修となることも生涯研修の選択肢となる。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
補綴咬合治療科(欠損)基本習得コース						
欠損歯列に伴う審美障害、咀嚼障害の治療と顎機能の保全のための咬合支持の確立を目的とした有床義歯の臨床に必要な基本的技術を身につける。						
1. 有床義歯治療のための診察と検査						
【一般目標】						
有床義歯の適正な治療計画の立案を行うため、診察と検査に必要な技術と態度を習得する。						
【行動目標】						
(1) 口腔外の診察を適正に行うことができる。	① 口腔外の診察および評価	C-1(1)①、②	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 口腔内の診察を適正に行うことができる。	① 口腔内の診察および評価	C-1(1)①、②				
(3) 既存の補綴装置を適正に評価することができる。	① 既存の補綴装置の評価	C-1(1)①、②				
(4) 模型(研究用模型)からの必要な情報を収集することができる。	① 研究用模型からの情報収集	C-1(1)③				
(5) エックス線検査の依頼を正しく記載することができる。	① エックス線検査依頼の記載	C-1(1)③				
(6) エックス線検査を適正に行い、評価することができる。	① エックス線検査の評価	C-1(1)③				

2. 総合治療計画							
【一般目標】							
合理的で患者さんの希望に合った有床義歯製作のために、総合治療計画の立案に必要な能力を身につける。							
【行動目標】							
(1) 一口腔単位の適正な診療計画を立てることができる。	① 一口腔単位の適正な診療計画の立案	C-1(1)⑤	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。	
(2) 治療計画の順序を正しく計画し、記載することができる。	① 治療計画の順序の計画 ② 治療計画の順序の記載	C-1(1)⑤、⑥					
(3) 必要な前処置(広義、狭義を含む)を計画し記載することができる。	① 必要な前処置の計画 ② 必要な前処置の記載	C-1(2)② e					
(4) 研究用模型においてサベイングを行い、適正な仮設計を行うことができる。	① サベイング ② 仮設計	C-1(2)② e					
(5) 仮設計の利点と欠点を説明することができる。	① 仮設計の利点と欠点に関する知識の習得						
(6) 治療期間と費用を明記することができる。	① 治療期間の記載 ② 治療費用の記載						
(7) 治療計画をわかりやすく説明し同意を得ることができる。(インフォームドコンセントの実施)	① インフォームドコンセントの獲得に留意した治療計画の説明	C-1(1)⑥					
3. 前処置							
【一般目標】							
計画された有床義歯を適正に製作するために、前処置に必要な基本的技術を習得する。							
【行動目標】							
(1) 簡単な拔牙、歯周病初期治療、う蝕処置ができる。	① 拔牙 ② 歯周病初期治療 ③ う蝕処置	C-1(2)①、②a, c, d, e	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。	
(2) レスト窩とガイドプレーンの形成ができる。	① ガイドプレーン形成 ② レスト窩形成	C-1(2)② e					
4. 印象採得							
【一般目標】							
適合が良く維持・安定の優れた有床義歯の製作のために、印象採得に必要な技術を習得する。							
【行動目標】							
(1) 各種印象材を適切に製作し使用できる。	① 各種印象材に関する知識の習得 ② 各種印象材の適切な使用	C-1(2)② e	1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。ただし(1)の行動目標については最低1例以上のレポートを作成していることが必要。	
(2) アルジネート印象材により適正な概形印象を採得できる。	① アルジネート印象材による適正な概形印象	C-1(2)② e	3症例				
(3) 個人トレー製作のための技工指示書を正しく記載することができる。	① 個人トレー製作のための技工指示書の記載	C-1(2)② e					
(4) モデリングコンパウンドを使って辺縁形成をすることができる。	① モデリングコンパウンドを使用した辺縁形成	C-1(2)② e					
(5) 精密印象材による機能印象ができる。	① 精密印象材による機能印象	C-1(2)② e					

5. 咬合採得						
【一般目標】						
有床義歯の適正な咬合位を確立するための咬合採得に必要な技術と態度を習得する。						
【行動目標】						
(1)欠損歯列の対応した適切な咬合床製作のための技工指示書を記載することができる。	① 咬合床製作のための技工指示書の記載	C-1(2)② e C-1(2)⑤ C-2(1)②	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。
(2)咬合採得に必要な機材器具を準備する。	① 咬合採得に必要な機材器具の準備	C-1(2)② e				
(3)ゴシックアーチトレーサを適切に使用できる。	① ゴシックアーチ描記	C-1(2)② e				
(4)適正な咬合高径と中心咬合位を記録できる。	① 適切な咬合高径の記録 ② 適切な中心咬合位の記録	C-1(2)② e				
6. 有床義歯の設計						
【一般目標】						
義歯による咀嚼機能回復を計るために、義歯設計に必要な知識と技術を身につける。						
【行動目標】						
(1)適正なレストの数と位置を設定(支持の設計)できる。	① 支持を考慮した設計	C-1(2)② e	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)支台歯のサベラインから適正なクラスプの設計(維持の設計)ができる。	① 維持を考慮した設計	C-1(2)② e				
(3)大連結子の適切な設計ができる。	① 大連結子の適切な設計	C-1(2)② e				
(4)義歯の安定のための設計ができる。	① 義歯の安定のための設計	C-1(2)② e				
(5)歯周衛生を考慮した設計ができる。	① 歯周衛生を考慮した設計	C-1(2)② e				
7. 有床義歯の調整						
【一般目標】						
義歯装着時や使用中の義歯の不具合を修正し、より機能性を高めるために義歯の調整に必要な知識と技術を習得する。						
【行動目標】						
(1)装着時に不適合をきたす原因を列挙することができる。	① 装着時に不適合をきたす原因に関する知識の習得		口頭試問			
(2)義歯床及びクラスプの適合検査ができる。	① 義歯床の適合検査 ② クラスプの適合検査	C-1(2)② e	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。ただし(1)の行動目標については最低1例以上の口頭試問を実施していることが必要。
(3)装着時に着脱をスムーズにする微調整ができる。	① 装着時に着脱をスムーズにする微調整の実践	C-1(2)② e				
(4)人工歯の咬合干渉を検出できる。	① 人工歯の早期接触の検出 ② 人工歯の咬頭干渉の検出	C-1(2)② e				
(5)人工歯の咬合調整ができる。	① 人工歯の咬合調整	C-1(2)② e				
(6)義歯床下粘膜の疼痛部の検出ができる。	① 義歯床下粘膜の疼痛部の検出	C-1(2)② e				
(7)義歯床圧入部の床の削除調整ができる	① 義歯床圧入部の床の削除調整	C-1(2)② e				

8. 有床義歯製作のための技工						
【一般目標】						
設計通りの義歯を製作するために必要な技工操作に関連する知識や技術を習得する。						
【行動目標】						
(1) 正しく技工指示書を記載する。	① 技工指示書の作成	C-1(2)⑤	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。
(2) 義歯製作のため基本的技工操作ができる。(クラスプのワックスパターン、ワイヤークラスプ、鑄造、人工歯排列、レジン重合、研磨)	① 義歯製作に関する基本的技工操作の実践	C-1(2)② e	3症例			
(3) 簡単な義歯修理をすることができる。	① 義歯の修理 ② 粘膜調整 ③ リベース	C-1(2)② e C-1(2)③	3症例			
9. 顎関節症治療						
【一般目標】						
咬合性の顎関節症例について、咬合治療の中でのオクルーザルスプリントの効果を経験する。						
【行動目標】						
(1) オクルーザルスプリントの効果の説明ができる。	① オクルーザルスプリントの効果に関する知識の習得		1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。ただし(1)の行動目標については最低1例以上のレポートを作成していることが必要。
(2) オクルーザルスプリントを製作できる。	① オクルーザルスプリントの製作 ② オクルーザルスプリントの調整					

7) 口腔外科(第1科・第2科)

【研修概要】

口腔外科では第1科と第2科が共同で外来ならびに中央手術室および病棟での診療にあたっている。6か月間の院内診療科研修では病院本館4階口腔外科外来にて、口腔外科疾患患者の医療面接、検体検査指示、画像検査指示、理学検査、口腔外科外来手術の介助、単純抜歯、複雑抜歯、埋伏抜歯の執刀、顎関節症関連処置、静脈内注射、点滴処置、外来手術の術後処置、有病者に対する観血的処置などを、また本館12階中央手術室、本館13階病棟にて、手術計画の立案、入院下手術の介助、各種検査指示、術期管理、入院患者へのインフォームドコンセントなどの技能・態度を習得することを目的とする。

手術症例の診断や術式の理解について講座員全員が共有することを目的に、毎週行われる症例検討会で担当医がプレゼンテーションを行うことになっているが、研修歯科医も担当医として主体的に参画することにより、口腔外科の基本的知識・技能の習得を行う。

臨床研修終了後も、さらに専門性を高めるため大学院生、専攻生、病院医員、研修歯科医(非常勤)などの進路がある。また、関連病院歯科口腔外科での研修や一般病院麻酔科研修などのコースが開かれている。

研修期間中に(公社)日本口腔外科学会に入会し、さらに2年間の研修ののちには口腔外科認定医、さらにその後には口腔外科専門医の取得を目指す道もある。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
生涯にわたる歯科医療の研修を行うために、口腔外科専門診療の基本についての知識、態度及び技能を習得する。						
1.顎口腔疾患診断演習						
【一般目標】 日常歯科診療を的確に実施するために、顎口腔領域の疾患の鑑別診断に必要な知識、態度及び技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)画像検査を適切に指示する。	① パノラマレントゲンの撮影を指示する ② CTの撮影を指示する ③ MRIの撮影を指示する	C-1(1) ③	20症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、20例以上経験していることが必要。
(2)検体検査を適切に指示する。	① 血液検査を指示する ② 病理組織検査を指示する ③ 細菌検査を指示する	C-1(1) ③				
(3)理学検査を指示する。	① 肺活量を指示する ② 心電図を指示する ③ 超音波検査の指示をする	C-1(1) ③				
(4)顔面・口腔内写真が撮影できる。	① 顔面写真を撮影する ② 口腔内写真を撮影する	C-1(1) ②				
(5)得られた医療情報から診断する。	① 智歯周囲炎を診断する ② 嚢胞性疾患を診断する	C-1(1) ④				
(6)治療方針を症例検討会で提示する。	① 嚢胞性疾患を症例報告する ② 菌原性腫瘍を症例報告する	C-1(1)⑤				

2.入院患者管理						
【一般目標】						
歯科診療における重篤な患者に対応するために、入院下での患者管理に必要な知識、態度及び技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)画像検査を適切に指示する。	① パノラマレントゲンの撮影を指示する ② CTの撮影を指示する ③ MRIの撮影を指示する	C-1(1) ③	5症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5例以上経験していることが必要。
(2)検体検査を適切に指示する。	① 血液検査を指示する ② 病理組織検査を指示する ③ 細菌検査を指示する	C-1(1) ③				
(3)術後局所処置を適切に実践する。	① 術後創部の洗浄・消毒をする ② 術後創部の抜糸する	C-1(3) ⑤				
(4)ベッドサイドでのコミュニケーションスキルを実践する。	① 入院中に訪床し、患者の体調を伺う	C-1(2) ④				
(5)入院管理の指示を適切にカルテに記載する。	① 術前の指示をカルテに記載する ② 術後の指示をカルテに記載する	C-1(2) ⑤				
3.周術期管理						
【一般目標】						
口腔外科手術を安全に行うために、周術期の患者管理に必要な知識、態度及び技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)適切で十分な全身疾患の医療情報を収集する。	① 現病歴の聴取をする ② 既往歴の聴取をする ③ 服薬内用を把握する	C-1(1) ①	5症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5例以上経験していることが必要。
(2)基本的な診察・検査を実施する。	① 全身状態を診察する ② 局所の状態を診察する ③ 周術期に必要な検査を指示する	C-1(1) ②③				
(3)手術に関するインフォームドコンセントを行う。	① 嚢胞摘出術の術式を説明する ② 嚢胞摘出術の合併症を説明する ③ 嚢胞摘出術の後遺症を説明する	C-1(1) ⑥				
(4)バイタルサインを観察し、術中の異常を評価する。	① 術中の血圧の変動を把握する ② 術中の呼吸状態を把握する ③ 術中の体温を把握する	C-1(3) ③				
(5)モニターを装着させ、術中の異常を評価する。	① 術中の血圧の変動を把握する ② 術中の脈拍を把握する ③ 術中の呼吸状態を把握する	C-1(3) ③				
(6)術後注意事項を適切に患者に説明する。	① 術後の安静度を説明する ② 術後の疼痛時の対応について説明をする ③ 術後の含嗽・ブラッシングについて説明する	C-1(2) ② d				



4. 拔牙術						
【一般目標】						
一般的な歯科治療に対処するため、保存不能あるいは、将来健康被害をこうむる可能性の高い歯を抜去するための基本的な知識、態度及び技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 拔牙に関するインフォームドコンセントを行う。	① 拔牙術の術式を説明する ② 拔牙術の合併症を説明する ③ 拔牙術の後遺症を説明する	C-1(1) ⑥				
(2) 普通拔牙に用いる器具、器材を準備する。	① 清潔域を設定する ② 適切な挺子を選択する ③ 適切な鉗子を選択する	C-1(2) ② d				
(3) 複雑拔牙および埋伏歯拔牙に用いる器具、器材を準備する。	① 清潔域を設定できる ② 適切な歯の切削器具を選択する ③ 適切な挺子・鉗子を選択する	C-1(2) ② d				
(4) 術野の消毒を実践する。	① 清潔域を守る ② 適切な消毒薬を選択する ③ 適切な範囲を消毒する	C-1(2) ② d				
(5) 下顎孔伝達麻酔を実践する。	① 正しく準備ができる ② 下顎枝を触診し、刺入点を設定する ③ 薬剤注入前に吸引試験をする	C-1(2) ② d				
(6) 挺子操作による歯の脱臼を実践する。	① 適切な挺子を選択する ② 正しく挺子を持つ ③ 挺子を用いて歯を脱臼させる	C-1(2) ② d	10症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、10例以上経験していることが必要。
(7) 鉗子操作による拔牙を実践する。	① 適切な鉗子を選択する ② 正しく鉗子を持つ ③ 鉗子を用いて拔牙する	C-1(2) ② d				
(8) 口腔粘膜の切開を実践する。	① 適切なメスの刃を選択する ② メス刃を装着し、把持する ③ 適切な部位を切開する	C-1(2) ② d				
(9) 粘膜骨膜弁を挙上する。	① 適切な剥離子を選択する ② 正しく把持する ③ 周囲組織に配慮し粘膜弁を挙上する	C-1(2) ② d				
(10) 基本的な縫合操作を実践する。	① 適切に縫合針に糸をつける ② 正しく把持する ③ 周囲組織に配慮し縫合する	C-1(2) ② d				

5.消炎処置						
【一般目標】						
一般的な歯科治療に対処するため、菌性感染症に対する消炎処置を行うための基本的な知識、態度及び技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 菌性感染症の症状を理解する。	① 全身状態を診察する ② 局所の状態を診察する ③ 感染源を予測する	C-1(1) ②				
(2) 適切な抗菌薬を処方する。	① 抗菌薬の種類を理解する ② 点滴の指示をする ③ 内服の指示をする	C-1(2) ② d				
(3) 菌性感染症に対する必要な検査を指示する。	① 血液検査を指示する ② 画像検査を指示する ③ 細菌検査を指示する	C-1(1) ③				
(4) 点滴セットを準備する。	① 必要な薬剤を指示する ② 薬剤を混和しルートを作る ③ 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ③				
(5) 静脈穿刺・抜針を実践する。	① 静脈穿刺をする ② 抜針をする ③ 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ③				
(6) 膿瘍切開に必要な器具・器材を準備する。	① 適切なメスの刃を選択する ② 剥離するための器具を準備する ③ ドレーンを準備する	C-1(2) ② d				
(7) 口腔内膿瘍切開のための局所麻酔を実践する。	① 膿瘍の部位を確認する ② 膿瘍周囲に麻酔する ③ 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ② d				
(8) 口腔内膿瘍に対する試験穿刺を実践する。	① 膿瘍腔に穿刺針を刺し吸引する ② 膿を確認する ③ 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ② d				
(9) 口腔内膿瘍切開を適切に実践する。	① 膿瘍腔にメスにて切開する ② 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ② d				
(10) 口腔内膿瘍の後処置を適切に実践する。	① 洗浄する ② ドレーンを留置する ③ 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ② d				
			5症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5例以上経験していることが必要。

6.歯・歯槽外科手術診療補助						
<b>【一般目標】</b>						
一般歯科診療における外来手術を円滑に遂行するために、歯・歯槽外科手術の診療補助に関する知識、態度及び技能を習得する。						
<b>【行動目標】</b>						
(1)術野の消毒を実践する。	① 消毒薬を選択する ② 適切な範囲を消毒する	C-1(2) ② d	5症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5例以上経験していることが必要。
(2)手指の消毒を実践する。	① 正しく手洗いをを行う ② 滅菌手袋を装着する ③ 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ② d				
(3)歯・歯槽外科手術器具を準備する。	① 切削器具を準備する ② 手術器具を準備する ③ 清潔に配慮し操作する	C-1(2) ② d				
(4)デンタルユニット周囲の消毒法を適切に指示する。	① 清潔域を設定する ② 術後のユニット周囲の清拭をする	C-1(2) ② d				
(5)術式を時系列で理解する。	① 術式を説明する	C-1(1) ⑥				
(6)術中の共同作業を実践する。	① 術野を鉤やミラーで確保する ② 術野を吸引する	C-1(2) ② d				
7.顎関節症治療						
<b>【一般目標】</b>						
一般的な歯科疾患に対処するために、顎関節症に対する基本的な治療に関する知識、態度及び技能を習得する。						
<b>【行動目標】</b>						
(1)顎関節症の症状を理解する。	① 顎関節症の症状を聴取する ② 顎関節症の現症を把握する	C-1(1) ②	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。
(2)適切な画像検査を指示する。	① パノラマ、パノラマ顎関節撮影法を指示する ② MRIの撮影を指示する ③ CTの撮影を指示する	C-1(1) ③				
(3)適切な投薬を処方する。	① 投薬内容を説明する ② 適切な投与量と服用期間を指示する	C-1(2) ⑤				
(4)スプリント治療のための印象採得を実践する。	① トレーを選択し、指摘する ② 上下顎の印象採得を行う	C-1(2) ② d				
(5)スプリント治療のための顎位を決定する。	① 治療顎位における咬合採得を行う	C-1(2) ② d				
(6)適切に技工指示書を作成する。	① スプリントの種類を決定する ② 決定したスプリントの技工指示書を作製する	C-1(2) ② d				
(7)スプリントの基本的な咬合調整を実践する。	① 咬合紙を用いて咬合状態を確認する ② 咬合調整を行う ③ 研磨を行う	C-1(2) ② d				
(8)治療経過を評価する。	① 再来院時の顎関節症の症状を聴取する ② 再来院時の顎関節症の現症を把握する	C-1(1) ②				

8)矯正歯科

【研修概要】

6か月間の院内診療科研修では、矯正学の基礎と矯正臨床における基本的手技の理解が主目的となる。本館10階の矯正歯科外来で診療見学することにより、矯正臨床の初診から治療終了までのプロセスを理解し、矯正歯科医の入門としての知識・技能・態度を学ぶ。矯正歯科では、乳歯咬合期の治療・混合歯咬合期の治療・永久歯咬合期の治療・他科との協力が欠かせない口唇口蓋裂や顎変形症の治療(外科矯正)を行っている。これらのすべてを診断・治療するには、不正咬合の原因、成長発育、矯正力と生体反応、矯正治療材料の性質、矯正装置の使用法、保定などを十分に理解する必要がある。外来診療見学を通して直接症例を診ることによって、これらの知識を深めていただく。特に、診断学については、全身の成長発育、頭部X線規格写真法による顎顔面形態の分析、口腔内模型診査、顎機能検査データの基礎的な解釈の仕方の訓練を行う。症例検討会を行う講座会には積極的に参加をしてもらい、矯正学の専門性を高めていってもらおう。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
不正咬合に伴う咀嚼機能障害、審美障害の治療とそれらの保全を行うための診断、治療に必要な基本的知識、技術を習得する。						
1.診断に必要な資料の採取						
【一般目標】						
矯正診断を行うために必要な各種資料を正確に採取する意義の理解と採得技術を習得する。						
【行動目標】						
(1)顔貌の診察を適正に行う。	① 顔貌の診察および評価	C-1(1)②	1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)口腔内の診察を適正に行う。	① 口腔内の診察および評価	C-1(1)②				
(3)顔面写真を適正に撮影する。	① 顔面写真撮影方法の習得	C-1(1)③				
(4)口腔内写真を適正に撮影する。	① 口腔内写真撮影方法の習得	C-1(1)③				
(5)口腔の印象を正確に採得する。	① 印象採得の習得	C-1(1)③				
(6)口腔および頭部の画像検査を適切に指示する。	① 画像検査の指示	C-1(1)③				
2.資料の分析						
【一般目標】						
正確な矯正診断を行うための各種資料の分析手技を習得する。						
【行動目標】						
(1)模型分析の意義と技術を習得する。	① 模型分析の意義の習得 ② 模型分析の技術の習得	C-1(1)③	1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)顔面写真で患者の特徴を把握する。	① 顔面写真からの情報収集	C-1(1)③				
(3)エックス線写真を読影する。	① エックス線写真の評価	C-1(1)③				
(4)頭部エックス線規格写真のトレースを正確に行う。	① トレース方法の習得	C-1(1)③				
(5)分析表を作成し、評価する。	① 分析表の作成 ② 分析表の評価	C-1(1)③				

3.治療計画の立案						
【一般目標】						
治療計画を立案するための資料の整理とその生かし方の手技を習得する。						
【行動目標】						
(1) 模型、写真から問題点を整理する。	① 模型から問題点の整理 ② 写真から問題点の整理	C-1(1)③	1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 頭部エックス線規格写真の分析結果を表記する。	① 分析結果の作成	C-1(1)③				
(3) エックス線写真、頭部エックス線規格写真の分析結果から問題点を抽出する。	① エックス線写真、頭部エックス線規格写真の分析結果から問題点の抽出	C-1(1)③				
(4) 問題点を整理し、治療方法を立案する。	① 問題点の整理 ② 治療方法の立案	C-1(1)④⑤				
4.矯正装置の設計						
【一般目標】						
矯正診断から立案した治療結果を達成するための具体的な方法を考え、必要な各種矯正装置を設計し、製作方法の技術を習得する。						
【行動目標】						
(1) 矯正装置の種類を習得する。	① 矯正装置の種類を習得		1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 矯正装置の使用法を理解する。	① 矯正装置の使用法の理解					
(3) 矯正装置の利点と欠点を識別する。	① 矯正装置の利点と欠点に関する知識の習得					
5.矯正装置の製作						
【一般目標】						
矯正装置の設計のための基本的な知識、態度および技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 矯正装置の製作に必要な器具、材料を準備する。	① 矯正装置の製作に必要な器具の準備 ② 矯正装置の製作に必要な材料の準備		1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 矯正装置製作のためのワイヤーベンディングを習得する。	① 矯正装置製作のためのワイヤーベンディング					
(3) 装置製作のための基本的技工操作を習得する。	① 基本的技工操作の習得					
(4) 簡単な床装置を作ることができる。	① 床装置の製作					

6.アーチワイヤーベンディング						
【一般目標】						
マルチブラケット装置の使用前に、歯牙移動の概念を理解し、実際の治療方法を習得する。						
【行動目標】						
(1) first-order bend, second-order bend, third-order bendを理解する。	① first, second, third-order bendに関する知識の習得		1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) U-archからワイヤーベンディングの作用と反作用を理解する。	① ワイヤーベンディングの作用と反作用に関する知識の習得					
(3) 各種ループの形状と特性を理解する。	① 各種ループの形状と特性に関する知識の習得					
(4) 上下顎のアーチワイヤーの調和について習得する。	① 上下顎のアーチワイヤーの調和に関する知識の習得					
7.矯正装置の調節						
【一般目標】						
矯正装置の不具合を修正し、より機能性を高めるための矯正装置の調整に必要な知識と技術を習得する。						
【行動目標】						
(1) 床装置の不具合を調整できる。	① 床装置の調整		1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) マルチブラケット装置の不具合を調整できる。	① マルチブラケット装置の調整					
8.保定観察						
【一般目標】						
矯正治療後に行うべき保定についての意義の理解と基本的知識を習得する。						
【行動目標】						
(1) 保定装置を製作する。	① 保定装置の製作		1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2) 治療前後の資料を分析し、比較検討する。	① 治療前後の資料の分析					
(3) 後戻りに対する対応策について理解する。	① 後戻りへの対応策についての知識の習得					

9) 歯科放射線科

【研修概要】

放射線学は、診断・治療・防護の三つの柱から成り立っている。治療のスタートは診断であり、検査が不適切では十分な診断を得ることは不可能である。適切な画像検査が実施できるように診断を中心に研修を行う。到達目標は顎口腔領域の画像検査が適切に行え、読影レポートを作成できる。研修は三期に別けて行う。

前期はデンタルおよびパノラマ線撮影を中心とした撮影を習得する。中期は患者を診察し、撮影法の決定ができ、読影レポートの作成が行える。後期は特殊検査(MRI、CT、超音波、造影)の選択ができる。全期間を通して、MRIなどの特殊検査の介助や口腔癌患者の口腔管理を行い、放射線治療患者の取り扱いを習得するなどを目標とする。放射線治療やRI検査については必要に応じて、大阪大学医学部など他施設への見学研修を実施。

医局研修としては、毎週木曜日に症例のチェックをする画像検討会、学会および実習講義のリハーサルや年2-3回のフィルムカンファレンスで医員のレベル向上を図っている。

研修終了後は、歯科放射線認定医や博士取得のための大学院や専攻生としての入局により高度な放射線学の習得も可能である。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
生涯にわたる歯科医療の研修を行うために、歯科放射線科専門診療の基本についての知識、態度および技能を習得する。						
1.デンタル・パノラマ線撮影						
【一般目標】						
一般的な歯・顎領域の疾患の診断に必要な撮影技術と態度を習得する。						
【行動目標】						
(1)デンタル(口内法)を実践する。	① 二等分法撮影 ② 咬翼法撮影 ③ 咬合法撮影	C-1(1)③	20症例	指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医の指導の下、撮影を行う。  指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医の指導の下、撮影を行った症例の読影を行う。	1患者の撮影および読影を行った場合、1症例とする。できるだけ、検査から読影の流れを連続して経験した場合は1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例①：問診→撮影→読影 例②：撮影指示→撮影→読影	目標達成の基準として、合計20例以上経験していることが必要。ただし、(1)から(4)までの行動目標ごとに最低4例以上を経験していることが必要。
(2)パノラマ線撮影を実践する。	① 全顎パノラマ撮影 ② 顎関節四分割パノラマ撮影	C-1(1)③				
(3)得られた画像情報から診断する。	① 口内法撮影像の読影 ② パノラマ線撮影像の読影 ③ 口外法撮影像の読影	C-1(1)③				
(4)読影会で症例提示する。	① 読影症例のプレゼンテーション	C-1(1)③				

2.各種撮影法の決定						
【一般目標】						
歯・顎・顔面領域の疾患を診断するために各種画像検査法についての知識、態度および技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 画像検査を適切に指示(オーダー)する。	① 該当患者の撮影オーダーを決定する	C-1(1)① C-1(1)②	5症例	指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医の指導の下で撮影オーダーの決定および読影を行う。	検査から読影の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)例①：問診→撮影→読影例②：撮影指示→撮影→読影	目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただし、(1)から(3)までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。
(2) 顔面・口腔内写真を撮影する。	① 該当患者の口内写真撮影の補助を行う。	C-1(1)②				
(3) 得られた医療情報から診断する。	① 検査指示を行った症例の読影を行う。	C-1(1)③				
3.読影レポートの作成						
【一般目標】						
歯・顎・口腔領域の疾患を診断するために画像所見の書き方(読影レポート)に必要な知識、態度および技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 画像所見に必要な知識、態度および技能を習得する。	① デンタル・パノラマX線撮影像の解剖を理解する。 ② 特殊撮影像の解剖を理解する。		2症例	研修歯科医は、自主的に撮影された画像で自己学習を行う。  指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医の指導の下、撮影を行なった症例の読影を行なう。  研修歯科医は、指導歯科医の指導の下で読影した症例の提示解説を行う。	自己学習を行うので、症例数評価には含めない。	特に、設定はしない。
(2) 画像所見に必要な専門用語を理解する。	① デンタル・パノラマX線撮影像の病的表現を理解する。 ② 特殊撮影像の病的表現を理解する。	C-1(1)③				
(3) 画像を観察し、異常所見を評価する。	① デンタル・パノラマX線撮影像の解剖を理解する。 ② 特殊撮影像の解剖を理解する。	C-1(1)③				
(4) 読影会で提示する。	① 読影症例のプレゼンテーション ② パノラマX線撮影像のプレゼンテーション ③ 特殊撮影像のプレゼンテーション	C-1(1)③				
					検査から読影の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)例：問診→撮影指示→読影→症例提示説明	目標達成の基準として、合計2例以上経験していることが必要。最低1例以上は、指導歯科医の指導の下ですべての流れを経験していること。



4.特殊検査の選択						
【一般目標】						
顎・口腔領域の疾患を診断するために特殊検査法の選択に必要な知識、態度および技能を習得する						
【行動目標】						
(1)特殊検査(MRI,CT,超音波,造影)を理解する.	① CT,MRI検査を実施する。 ② 超音波検査を実施する。 ③ 造影検査の補助を行う。	C-1(1)③	2症例	指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医の指導の下、患者の検査準備や状態のチェックを行い、検査指示を行う。検査実施時には、立ち会う。その後、指導歯科医の指導の下、読影を行う。	検査指示から読影の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての特殊検査の流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、合計2例以上経験していることが必要。最低1例以上は、指導歯科医の指導の下ですべての流れを経験していること。
(2)特殊検査(MRI,CT,超音波,造影)を指示する.	① CT,MRI検査の目的を理解する。 ② 超音波検査の目的を理解する。 ③ 造影検査の目的を理解する。	C-1(1)③				
(3)各種検査に必要な器具、器材を準備する.	① 造影CT,MRI検査の環境を整える。 ② 超音波検査の環境を整える。 ③ 造影検査の環境を整える。	C-1(1)③				
(4)得られた画像情報から診断する.	① 造影CT,MRI検査の診断を行う。 ② 超音波検査の診断を行う。 ③ 造影検査の診断を行う。	C-1(1)③				
(5)読影会で提示する.	① 造影CT,MRI検査の提示解説を行う。 ② 超音波検査の提示解説を行う。 ③ 造影検査の提示解説を行う。	C-1(1)③				
5.頭頸部癌放射線治療後の患者の口腔管理						
【一般目標】	頭頸部癌放射線治療患者の口腔管理を適正に行う					
頭頸部癌根治照射後の患者の口腔管理に必要な知識、態度および技能を習得する.						
【行動目標】						
(1)根治照射患者の照射野を説明する.	① 照射方法の決定を行う。 ② 照射野の設定を行う。		1症例	研修歯科医を担当する指導歯科医が決め、レポート作成の際にサポート等を行う	照射方法決定から口腔管理までの流れを複数の患者を通して経験した場合を1症例として数える。(流れのすべてを経験することが望ましい。) 例①：照射方法決定→照射→照射中の患者管理 例②：経過観察中の患者の口腔管理	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価が60%以上のレポートを1例以上提出することが必要。
(2)根治照射患者の総線量を説明する.	① 空間的線量分布を理解する。					
(3)根治照射患者の照射技術を説明する.	① 照射方法の決定を行う。					
(4)照射後の画像検査を適切に行う.	① 照射部位の画像検査が実施できる。 ② 頸部リンパ節の検査の指示ができる。					
(5)口腔衛生指導・口腔管理を適切に行う.	① 照射後の口腔管理が指示できる。 ② 照射患者の口腔衛生指導ができる。					
(6)照射後の経過を評価する.	① 口腔内状況が判断できる。 ② 照射部位の画像検査が実施できる。 ③ 頸部リンパ節の画像検査が指示できる。					

6.放射線管理・品質管理						
【一般目標】						
品質保証プログラムと放射線管理に必要な知識および技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 品質保証プログラムを理解し、適切に行う。	① QCキットで線量の測定をする。		1症例	診療放射線技師が、実施する日常の品質保証プログラムを実施する際に診療放射線技師と併に測定およびその補助を行う。	日常の品質保証プログラムの測定および補助を行った場合、1症例とする。	品質保証プログラムの測定を最低1回は、経験する事が望ましい。
(2) 撮影装置および検出器を理解する。	① X線撮影装置と検出器の管理法を修得する。					
(3) 画像処理法と評価法を理解する。	① デジタルシステムで画像処理を行なう。					

10)小児歯科

【研修概要】

小児歯科では、乳幼児期から思春期にいたる小児の口腔疾患の予防および治療(歯冠修復、歯内療法、歯周処置、外科的処置や咬合誘導など)を総合的に行っており、摂食・嚥下訓練なども実施している。6か月間の院内研修では、小児患者の初診、診査、診断、治療および定期健診の総合的小児歯科フローチャートに基づく診療体系を実践・習得し、また、小児および保護者との対応およびコミュニケーションの方法を習得することを目的としている。

当講座では、症例検討会や臨床研修会を定期的に行っており、これらに参加することでより高度な知識を習得できる。

臨床研修終了後も、大学院生や専攻生として研究に従事し、博士(歯学)を取得したり、臨床の専門性を高めるために研修生となる方法もある。また、さらなる研修により日本小児歯科学会認定専門医を取得することも可能である。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
小児の齲蝕および歯周疾患を予防するために、小児の発育に則した一口腔単位の歯科治療の基本に関する知識、態度および技能を修得する。						
1.診査と診断						
【一般目標】						
小児の歯の治療計画立案を適正に行うために、診査と診断に必要な知識、技術および態度を修得する。						
【行動目標】						
(1)医療面接を適正に行う(事務的事項、主訴、症状、既往歴、特異体質、歯科的既往歴、発育、性格、現病歴、家族歴、周産期間の状態、哺乳と栄養、出産時の状態、患児の成長発育状態、疾患罹患の有無)。	① 主訴、症状の聴取 ② 既往歴、現病歴の聴取 ③ 周産期・出産時・患児の発育成長状態、哺乳と栄養、疾患罹患の有無、特異体質、発育、性格の聴取 ④ 歯科的既往歴、家族歴の聴取	C-1(1)①	5症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。
(2)全身および口腔の診査を適正に行う(頭部、顔貌、顎関節)。	① 頭部・顎顔面部の診査	C-1(1)②				
(3)口腔の診査を適正に行う(歯、歯列、咬合状態、口腔軟組織)。	① 口腔内診査	C-1(1)②				
(4)模型より必要な情報を収集する(歯数、形態異常、位置異常、咬合関係)。	① 模型分析	C-1(1)③				
(5)エックス線診査を適正に行う(パノラマエックス線、デンタルエックス線、咬翼法エックス線、咬合法エックス線)。	① エックス線診査	C-1(1)③				

2.治療計画						
【一般目標】						
小児の適正な歯の治療計画を立案するために、必要な知識、技術および態度を修得する。						
【行動目標】						
(1) 口腔を一単位として治療計画を立てる。	① 治療計画の立案	C-1(1)⑤	5症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。
(2) 治療を能率のおよび効果的に進めるように優先順位を決定する。	① 治療順序の決定	C-1(1)⑤				
(3) 応急処置により疼痛の軽減をはかる。	① 応急処置	C-1(2)③				
(4) 通院期間と治療費用を明記する。	① 通院期間と治療費用	C-1(1)⑤				
(5) 治療計画をわかりやすく説明し同意を得る。(インフォームドコンセントの実施)	① インフォームドコンセントの実施	C-1(1)⑥				
3.齲蝕および歯周疾患の予防						
【一般目標】						
小児の齲蝕および歯周疾患を予防するために、必要な知識と技能を修得する。						
【行動目標】						
(1) ブラッシング指導を実践する。	① ブラッシング指導	C-1(2)①	5症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5症例以上経験していることが必要。 (3)については、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。
(2) フロッシング指導を実践する。	① フロッシング指導	C-1(2)①	5症例			
(3) 歯口清掃の評価を習得する。	① 歯口清掃の評価	C-1(2)①	1レポート			
(4) PMTCを実践する。	① PMTC	C-1(2)①	5症例			
(5) スケーリングを実践する。	① スケーリング	C-1(2)①	5症例			
(6) 食生活指導を実践する。	① 食生活指導	C-1(2)①	1症例			
(7) フッ化物応用法を実践する。	① フッ化物応用法	C-1(2)①	5症例			
(8) 小窩裂溝填塞法を実践する。	① 小窩裂溝填塞法	C-1(2)①	5症例			

4.乳歯および幼若永久歯の歯冠修復						
【一般目標】						
乳歯および幼若永久歯の適切な歯冠修復を行うために、必要な知識と技能を修得する。						
【行動目標】						
(1)乳歯齲蝕の診査および診断を行う。	① 乳歯齲蝕の診査・診断	C-1(1)④	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (9)については、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。
(2)歯冠修復材料を選択する。	① 歯冠修復材料の選択	C-1(4)②	1症例			
(3)乳歯の窩洞形成および支台歯形成時の注意点を習得する。	① 乳歯の窩洞形成・支台歯形成時の注意点	C-1(4)②	1症例			
(4)乳歯のコンポジットレジン修復を実践する。	① 乳歯のコンポジットレジン修復	C-1(4)②	1症例			
(5)乳歯のグラスアイオノマーセメント修復を実践する。	① 乳歯のグラスアイオノマー修復	C-1(4)②	1症例			
(6)乳歯冠修復を実践する。	① 乳歯冠修復	C-1(4)②	1症例			
(7)接着性コンポジットレジン冠修復を実践する。	① 接着性コンポジットレジン冠修復	C-1(4)②	1症例			
(8)幼若永久歯齲蝕の診査および診断を行う。	① 幼若永久歯齲蝕の診査・診断	C-1(4)②	1症例			
(9)幼若永久歯の窩洞形成時の注意点を説明する。	① 幼若永久歯の窩洞形成時の注意点	C-1(4)②	1レポート			
(10)幼若永久歯のコンポジットレジン修復を実践する。	① 幼若永久歯のコンポジットレジン修復	C-1(4)②	1症例			
(11)幼若永久歯のグラスアイオノマーセメント修復を実践する。	① 幼若永久歯のグラスアイオノマーセメント修復	C-1(4)②	1症例			
5.乳歯および幼若永久歯の歯内療法						
【一般目標】						
乳歯および幼若永久歯の歯内療法を行うために、治療に必要な知識と技能を修得する。						
【行動目標】						
(1)乳歯歯髄炎の診査および診断を行う。	① 乳歯歯髄炎の診査・診断	C-1(1)④	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (2)(4)(6)(7)については、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。
(2)乳歯歯髄炎の臨床的特徴を説明する。	① 乳歯歯髄炎の臨床的特徴	C-1(1)⑥	1レポート			
(3)乳歯の歯髄鎮静法を実践する。	① 乳歯の歯髄鎮静法	C-1(4)②	1症例			
(4)乳歯の覆髄法、歯髄切断法、麻酔抜髄法および感染根管治療法を説明する。	① 乳歯の覆髄法、歯髄切断法、麻酔抜髄法および感染根管治療法	C-1(1)⑥	1レポート			
(5)幼若永久歯歯髄炎の診査および診断を行う。	① 幼若永久歯歯髄炎の診査および診断	C-1(1)④	1症例			
(6)幼若永久歯の歯髄切断法(アペキシゲネーシス)を説明する。	① 幼若永久歯の歯髄切断法(アペキシゲネーシス)	C-1(1)⑥	1レポート			
(7)幼若永久歯の感染根管治療法(アペキシフィケーション)を説明する。	① 幼若永久歯の感染根管治療法(アペキシフィケーション)	C-1(1)⑥	1レポート			

6.外科的処置						
【一般目標】						
乳歯および幼若永久歯の外科的処置を行うために、必要な知識と技能を修得する。						
【行動目標】						
(1) 表面麻酔、浸潤麻酔および伝達麻酔を実践する。	① 表面麻酔、浸潤麻酔および伝達麻酔			1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)
(2) 乳歯の抜歯を実践し、適応症、禁忌症および抜歯前後の留意点を説明する。	① 乳歯の抜歯 ② 適応症、禁忌症および抜歯前後の留意点	C-1(4)②		1症例 1レポート		
(3) 過剰歯を診査および診断する。	① 過剰歯の診査・診断	C-1(4)②		1症例		
(4) 過剰歯の抜歯時の留意点を説明する。	① 過剰歯の抜歯時の留意点	C-1(1)⑥		1レポート		
(5) 埋伏歯を診査および診断する。	① 埋伏歯の診査・診断	C-1(4)②		1症例		
(6) 口唇、歯肉、粘膜、小帯および舌の異常と処置法を説明する。	① 口唇、歯肉、粘膜、小帯および舌の異常と処置法	C-1(1)⑥		1レポート		
(7) 嚢胞と腫瘍の異常と処置法を説明する。	① 嚢胞と腫瘍の異常と処置法	C-1(1)⑥		1レポート		
(8) 投薬法と投薬量を説明する。	① 投薬法と投薬量	C-1(4)②		1レポート		
						目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (2)(2)(4)(6)(7)(8)については、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。

7.小児の歯の外傷						
【一般目標】						
乳歯および幼若永久歯の外傷に対応するために、必要な知識を修得する。						
【行動目標】						
(1)歯の外傷の好発部位、年齢および原因を説明する。	① 歯の外傷の好発部位、年齢および原因	C-1(1)⑥	1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (1)(3)~(9)については、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。
(2)歯の外傷の診査および診断を行う。	① 歯の外傷の診査および診断	C-1(1)④ C-1(2)③	1症例			
(3)歯の外傷時の歯冠修復法を説明する。	① 歯の外傷時の歯冠修復法	C-1(1)⑥	1レポート			
(4)歯の外傷時の歯内療法を説明する。	① 歯の外傷時の歯内療法	C-1(1)⑥	1レポート			
(5)歯の外傷時の固定法を説明する。	① 歯の外傷時の固定法	C-1(1)⑥	1レポート			
(6)歯の外傷時の再植法を説明する。	① 歯の外傷時の再植法	C-1(1)⑥	1レポート			
(7)歯の外傷時の歯根破折処置を説明する。	① 歯の外傷時の歯根破折処置	C-1(1)⑥	1レポート			
(8)歯の外傷後の影響を説明する。	① 歯の外傷後の影響	C-1(1)⑥	1レポート			
(9)歯の外傷予防法を説明する。	① 歯の外傷予防法	C-1(1)⑥	1レポート			
8.咬合誘導						
【一般目標】						
咬合誘導の知識を修得する。						
【行動目標】						
(1)咬合誘導の意義と目的を説明する。	① 咬合誘導の意義と目的	C-1(1)⑥	1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。
(2)歯列・咬合の診査、診断および処置法を説明する。	① 歯列・咬合の診査、診断および処置法	C-1(1)⑥	1レポート			
9.定期健診						
【一般目標】						
定期健診の方法や内容についての知識・技能を修得する。						
【行動目標】						
(1)定期健診の意義と目的を説明する。	① 定期健診の意義と目的	C-1(1)⑥	1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (1)については、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。
(2)定期健診の実践する。	① 定期健診	C-1(2)①	1症例			
(3)定期健診の資料を採取する。	① 定期健診の資料採取	C-1(2)⑤				

11) 歯科麻酔科

【研修概要】

歯科麻酔科での6か月間の院内研修では、全身管理法、救命救急処置の基本的知識と技能を習得することが目標となる。内容は、大きく分けて本院中央手術部と歯科麻酔科外来でのローテーション研修に分けられる。前者は、麻酔や手術を安全かつ円滑に行うための術前の患者管理(術前の臨床検査や診療)、術中の合併症(偶発症)を防ぐための患者管理、それらの基礎となる呼吸・循環・代謝に関する生理学、薬理学などを学ぶ。後者は全身疾患を有する患者の歯科治療を安全に遂行するため、全身管理モニターの使用方法などの患者管理法や薬物を用いた鎮静法の基本を習得する。また、救急蘇生法は、医療人としては是非習得しておかねばならないので、院内外で開催される救命救急講習会でのシミュレーション実習で基本的技能を学ぶ。さらに、講座内では、症例検討会、臨床勉強会、抄読会などが数多く開催されており、これらに参加することで、より高度な知識を得ることが可能である。

なお、歯科医師臨床研修終了後も、大学院や研修医などの進路があり、高度な知識と技能を身につけた日本歯科麻酔学会認定医や専門医への道がひらかれている。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導體制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
生涯にわたる歯科医療の研修を行うために、歯科麻酔科専門診療の基本についての知識、態度および技能を習得する。						
1. 基本的診療技能						
【一般目標】						
安全な歯科治療を行うために、歯科麻酔診療の基本となる診療技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 静脈路の確保を実践する。	① 点滴回路を組む ② 留置針の清潔操作 ③ 適切な固定	C-1(3)①②③④⑤	5症例	患者配当型 症例配当型	処置の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。	目標達成の基準として5症例以上を経験している事が必要。
(2) 自動血圧計、心電計、パルスオキシメータなどのモニタ機器を適切に取り扱う。	① 自動血圧計装着 ② 心電計の電極装着 ③ パルスオキシメータ装着	C-1(2)④ C-1(3)①②③④⑤				
(3) 薬物投与(静脈注射)を実践する。	① 薬物投与の実践	C-1(3)①②③④⑤				
(4) 術中管理における生体変化を正しく記録する。	① 麻酔チャートの記録	C-1(3)①②③④⑤				



2.全身管理						
【一般目標】						
全身管理の面から歯科治療を安全に行うために、身体状況と管理に関する知識、態度および技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)バイタルサインの変化を評価し記録する。	① バイタルサインの記録	C-1(2)④	5症例	患者配当型 症例配当型	処置の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。	目標達成の基準として5症例以上を経験している事が必要。
(2)歯科治療と全身疾患の関連を理解し説明する。	① 歯科治療と全身疾患の関連を理解 ② 歯科治療と全身疾患の関連を説明	C-1(3)①②				
(3)各種検査値の基準値を知り、異常値の意味を説明する。	① 検査項目の異常値把握	C-1(3)①②				
3.精神鎮静法						
【一般目標】						
歯科領域における鎮静法の概念を理解するために、吸入鎮静法および静脈内鎮静法の基本的な知識、態度および技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)鎮静管理担当医補助者としてチームに参加する。	① 術中管理への参加	C-1(3)①②③④⑤	3症例	患者配当型 症例配当型	処置の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。	目標達成の基準として3症例以上を経験している事が必要。
(2)精神鎮静法の種類と特徴および適応を説明する。	① 精神鎮静法の適応を理解	C-1(3)①②③④⑤				
(3)笑気吸入鎮静法に関する機器および器具の適切な取り扱いを行う。	① 笑気吸入鎮静器の構造を理解 ② 鎮静器の取り扱いを理解	C-1(3)①②③④⑤				
(4)高圧ガスポンペの適切な取り扱いを行う。	① ガスポンペの種類を理解 ② ポンペの適切な取り扱い	C-1(3)①②③④⑤				
(5)静脈内鎮静法の使用薬剤および薬理作用を説明する。	① 使用薬剤の種類把握 ② 使用薬剤の薬理作用把握	C-1(3)①②③④⑤				
(6)静脈内鎮静法に関する薬剤および器具の適切な取り扱いを行う。	① アンブルの扱い把握 ② 注射筒の適切な取り扱い	C-1(3)①②③④⑤				
(7)静脈路の確保を実践する。	① 点滴回路を組む ② 三方活栓の操作	C-1(3)①②③④⑤				
(8)鎮静管理中の経過を正しく記録する。	① 鎮静管理中の記録	C-1(3)①②③④⑤				

4.全身麻酔						
【一般目標】						
歯科領域の全身麻酔を理解するために、麻酔法、術前・術中・術後管理の実際についての基本的な知識、態度および技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)全身麻酔担当医補助者として麻酔チームに参加する。	① 全身麻酔担当医補助者として参加	C-1(3)①②③④⑤	5症例	患者配当型 症例配当型	処置の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。	目標達成の基準として5症例以上を経験している事が必要。
(2)全身麻酔法の種類と特徴を説明する。	① 全身麻酔法の種類と特徴を説明する。	C-1(3)①②③④⑤				
(3)麻酔前回診に補助者として参加する。	① 麻酔前回診に補助者として参加する。	C-1(3)①②③④⑤				
(4)麻酔前評価としての危険度を説明する。	① 麻酔前評価としての危険度を説明	C-1(3)①②③④⑤				
(5)麻酔導入、維持、覚醒の概念を説明する。	① 麻酔導入、維持、覚醒の概念を説明	C-1(3)①②③④⑤				
(6)マスクバッグによる人工換気を適切に行う。	① マスクバッグによる人工換気を行う	C-1(3)①②③④⑤				
(7)気管挿管の基本手技を実践する。	① 気管挿管の基本手技を実践する。	C-1(3)①②③④⑤				
(8)麻酔経過を正しく記録する。	① 麻酔経過を正しく記録	C-1(3)①②③④⑤				
5.救命救急処置						
【一般目標】						
歯科臨床における救命救急処置を理解するために、一次救命処置(BLS)についての知識、態度、技能を身につける。						
【行動目標】						
(1)心肺蘇生法の手順を述べ、シミュレーションを実践する。	① 心肺蘇生法の手順を説明 ② 心肺蘇生法の手順をシミュレーション	C-1(2)③ C-1(3)①②③④⑤	1症例	シミュレーション	処置の流れを連続して経験した場合を1症例(マネキン)と数える。	目標達成の基準として1症例以上を経験している事が必要。
(2)自動体外式除細動器(AED)を適切に使用する。	① AEDの適切な使用	C-1(2)③ C-1(3)①②③④⑤				

12)口腔インプラント科

【研修概要】

口腔インプラント科の研修では主にインプラント治療の進め方を研修することになる。

インプラント治療においては患者に対するインフォームドコンセント、植立手術等を行うための外科的な領域、上部構造を設計製作する補綴学的な領域、治療終了後の口腔内刷掃、メンテナンスなどの衛生指導等と多くの習得すべき課題が多い。

診療は主に本館10階の診療室と本館5階にある小手術室で行っている。本館5階の小手術室ではインプラントの埋入手術、骨移植術、サイナスリフトと呼ばれる上顎洞底挙上術などを行っており、10階の外来診療室では初診、カウンセリング、上部補綴物の作製、口腔内刷掃指導を行っている。研修の内容としては指導歯科医とともに初診で来た患者の問診から始まり、患者に対して十分なインフォームドコンセント、CTなど資料のそろえ方と読影法、治療法の検討、手術手技の理解と介助法などを習得していただく。それと平行して上部構造物の設計、印象採得、装着時の検査法ならびに補綴物完成後のメンテナンスなども見学していただく。研修終了後も引き続き、大学院、病院医員、研修医(非常勤)として入局していただき専門医への道を進めることも可能である。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
インプラントの基本的な概念の理解とインフォームドコンセントの方法、検査法、診断能力、治療計画の立案、手術法、補綴法、予後観察など基本的な知識の習得を行う。						
1.インプラント治療の理解						
【一般目標】						
インプラントを用いた治療方法の理解と生体組織との親和性、治癒機転などを理解し、生体に応用する際の利点欠点を習得する。						
【行動目標】						
(1)インプラント治療のアルゴリズムを習得し、一貫した治療法を理解する。	① インプラント治療の理解		1レポート	各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。	左記行動目標①-⑤の項目すべてを網羅していることを基準とする。	レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、評価がB以上のレポートを1例以上提出することが必要。
(2)インプラントの材質、表面性状、形態学的特長を理解する。	① インプラント材料の理解					
(3)生体の修復機転についての知識を習得し、インプラント体の硬組織、軟組織との接触状態を理解する。	① オッセオインテグレーションの理解					
(4)インプラント治療法の利点・欠点を理解し、他の治療法との対比が行える知識を習得する。	① 他の治療法との対比					
(5)生体の治癒機転を理解し、インプラントの予後判定が行えるよう知識を習得する。	① 予後判定の習得					

2.検査・診断						
【一般目標】						
インプラント治療を行う上で、必要な情報の収集法、さらにデータの読み方、インプラント治療が適応か否かの診断法を習得する。						
【行動目標】						
(1)放射線学的各種診断方法の理解。ステントの作製法、CT撮影の指示を適切に行える。	① 放射線学的各種診断方法の理解 ② ステントの作製	C-1(1)③ C-1(2)⑤	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験することが必要。
(2)臨床検査法を理解し、適切に指示する。	① 臨床検査法の理解	C-1(1)③				
(3)印象採得を行い診断用模型の作製ができる。	① 診断用模型の作製	C-1(2)⑤				
(4)模型から最終補綴物の歯冠形態を予測し説明できる。	① 最終補綴物の歯冠形態の予測	C-1(2)⑤				
(5)口腔内写真を撮影する。	① 口腔内写真の撮影	C-1(1)③				
(6)作製した資料からインプラント治療の適応症か否かを診断する。	① 適応症の診断	C-1(1)④				
(7)インプラントの選択、手術術式の選択を適切に行う。	① 手術術式の選択	C-1(1)⑤				
(8)資料を基に治療前のシミュレーションを行う。	① シミュレーション	C-1(1)⑤				
3.インフォームドコンセント						
【一般目標】						
患者に対する十分な説明が行え、理解を得るとともに患者が納得できる治療を行う。						
【行動目標】						
(1)インプラント治療について、検査の必要性の説明ができる。	① 患者・家族への必要な情報の提供	C-1(1)⑥	3症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。
(2)インプラント治療が可能な状態か否かの説明ができる。	① 患者・家族への必要な情報の提供	C-1(1)⑥				
(3)治療によって生じる恐れのある合併症や後遺症について説明ができる。	① 患者・家族への必要な情報の提供	C-1(1)⑥				
(4)機能、審美的回復の限界を説明できる。	① 患者・家族への必要な情報の提供	C-1(1)⑥				

4.総合治療計画の立案						
【一般目標】						
症例に合わせた総合的な治療計画の立案に必要な能力を身につける。						
【行動目標】						
(1)検査・診断時に作製した診断用模型・エックス線画像・口腔内写真などの資料を用いて、現在の口腔内の問題点を把握する。	① 問題点の把握	C-1(1)③,④	1症例	各研修歯科医を担当する指導歯科医・上級歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。 患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験・1例以上のレポート作成していることが必要。
(2)症例に合わせてインプラントだけでなく義歯・クラウンブリッジなどすべての治療案を作成し記載	① 治療計画案の作成	C-1(1)⑤	1症例			
(3)天然歯との被圧変位性の違いを理解する。	① 被圧変位性の違いの理解		1レポート			
(4)インプラント体の形態を理解し、清掃性、周囲軟組織との関係、強度・耐久性、材料の説明が行えるようにする。	① 患者・家族への必要な情報の提供	C-1(1)⑥	1症例			
(5)固定性上部構造と可撤性上部構造の特徴を理解し、それぞれの利点欠点を習得する。	① 上部構造の違いの理解		1レポート			
(6)固定性上部構造はセメント固定式とスクリュー固定式に分けられ、それぞれその用途に応じた利点欠点を習得する。	① 固定式の違いの理解					
(7)アバットメントが選択されるため、その特徴を理解し、それぞれの利点欠点を習得する。	① アバットメントの理解					
(8)可撤性上部構造はインプラント支持タイプとインプラント-粘膜混合支持タイプに分けられ、それぞれの特徴を理解し、それぞれの利点欠点を習得する。	① 可撤性上部構造の理解					
(9)暫間上部構造の臨床的意義を理解する。	① 暫間上部構造の理解					
(10)様々な治療法に対して、治療期間と治療費用の説明をする。	① 患者・家族への必要な情報の提供	C-1(1)⑥	1症例			
(11)治療計画をわかりやすく説明できる。	① 患者・家族への必要な情報の提供	C-1(1)⑥				
5.前処置						
【一般目標】						
インプラント治療を進めていくに際しての術前処置の重要性を理解し基本手技を習得する。						
【行動目標】						
(1)1次手術までの術前処置を理解する。	① 術前処置の理解	C-1(2)①	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)最終補綴物に向けて口腔内の状態に合わせた治療法を立案	① 最終治療法の立案	C-1(1)⑤				
(3)インプラント体の長期管理のため、術前から口腔内清掃の重要性を理解する。	① 口腔清掃指導の理解	C-1(2)①				
(4)個々の患者に適したブラッシング法の選択と手技を習得する。	① 口腔清掃指導の実践	C-1(2)①				

6.手術補助						
【一般目標】						
円滑なインプラント及び外科処置を実施するために必要な行動を身に付ける。						
【行動目標】						
(1)手術器具の名称、使用目的、使用方法を理解し、必要な器具・器材の準備を行う。	① 器具の準備	C-1(2)②e	1症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい)	目標達成の基準として、1例以上経験していることが必要。
(2)手術時の補助を行う。	① 手術時の補助	C-1(2)②e				
(3)術前・後の注意事項を理解し、患者に対して説明ができる。	① 術前・術後の患者指導	C-1(2)②e				
7.インプラント埋入手術						
【一般目標】						
外科手術の基本的知識を理解したうえで、インプラント埋入手術に際しての態度や技能を習得す						
【行動目標】						
(1)手術補助者として以下のこと(②～⑩)を見学し、学ぶ。	① 埋入術前・術中・術後の補助	C-1(2)②e	5症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、5例以上経験していることが必要。
(2)インプラント手術に際して用いる機械・器具の準備を行う。		C-1(2)②e				
(3)感染予防のため術前投薬を行う。		C-1(4)①,②				
(4)口腔内清掃、手術領域の清拭を実践できる。		C-1(2)②e				
(5)笑気鎮静法を実践し、習得する。		C-1(2)④				
(6)手術中にモニターを装着し、術中の患者の病態を管理する。		C-1(2)④				
(7)適切な切開線を設定し、粘膜骨膜弁を形成する。		C-1(2)②e				
(8)患者の骨質を理解し、適切なインプラント体の選択、埋入を行う。		C-1(2)②e				
(9)各種縫合操作を実践する。		C-1(2)②e				
(10)手術後の予後観察を行い、経過を評価する。		C-1(2)②e				

8.印象・咬合採得						
【一般目標】						
インプラント上部構造体の印象・咬合採得時における基本的術式を理解し、必要な技術を習得す						
【行動目標】						
(1)個人トレー作製のための技工指示書を正しく記載する.	① 個人トレー作製のための技工指示書の記載	C-1(2)⑤	3症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。
(2)オーブントレー法、クローズドトレー法それぞれの特徴を理解する.	① 印象採得法の理解	C-1(2)②e				
(3)インプラント体の位置、歯肉形態を正しく再現できるよう、印象用ポストを正しく装着し、必要があれば結紮し固定することを	① 印象採得用器具の理解	C-1(2)②e				
(4)精密印象材を使って、印象採得を習得する.	① 印象採得の実践	C-1(2)②e				
(5)咬合採得に必要な機材器具を準備し、必要であれば咬合床作製のための技工指示書を記載	① 詳細な技工指示書の記載	C-1(2)⑤				
(6)適正な咬合高径と中心咬合位を習得できるよう理解する.	① 顎位の理解	C-1(2)②e				
9.補綴物の調整						
【一般目標】						
機能性を高めるために、インプラント上部構造体の咬合、清掃性の調整に必要な知識と技術を習得する.						
【行動目標】						
(1)インプラント体やアパットメントとの適合性を検査する.	① 上部構造の装着	C-1(2)②e	3症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。
(2)各種咬合診査機器を用いて咬合接触状態をチェックし、咬合の安定を図る.	① 咬合接触の確認	C-1(2)②e				
(3)患者自身がブラークコントロールを行い易く、高い清掃性を維持できる歯冠形態の調整ができる	① 歯冠形態の調整	C-1(2)②e				
10.治療後管理(メンテナンス)						
【一般目標】						
インプラントを長期成功させるためのリコールと術後管理の重要性を理解し基本手技を習得す						
【行動目標】						
(1)長期の機能維持のために、定期的な術後管理の必要性を理解し説明できる.	① 術後管理の説明	C-1(2)①	3症例	症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、3例以上経験していることが必要。
(2)上部構造装着後の形態に合わせたメンテナンス方法の選択ができ説明できる.	① メンテナンス方法の選択	C-1(2)①				
(3)個々の患者に合わせた補助清掃器具を選択し指導ができる.	① 補助清掃器具を選択	C-1(2)①				
(4)メンテナンス時に撮影したエックス線画像を読影し、予後の判定ができる.	① エックス線画像の読影	C-1(1)⑤				
(5)予後不良症例に対して対応できるよう、その手技・方法を理解し習得する.	① 予後不良症例の対応	C-1(1)⑤				

13)障がい者歯科

【研修概要】

障がい者歯科では、年齢を問わず、知的能力障害や自閉症スペクトラム障害などの発達障害、脳性まひ・Parkinson病や脳血管障害後遺症などの運動障害、うつ病や認知症などの精神障害、および感覚障害や口腔機能障害など、さまざまな障がいを持つ患者に加え、歯科恐怖症や異常絞扼反射など、特別な配慮(スペシャルニーズ)を必要とする患者の歯科治療、予防的歯科処置を総合的に行っている。

主に診療は附属病院11階の障がい者歯科で行い、加えて静脈鎮静下ならびに全身麻酔下での治療は、歯科麻酔科と共同で行っている。6ヶ月間の研修期間において、障がいを有する患者の医療面接、全身評価ならびに障がいの評価を行い、治療計画を立案できるよう研修を行う。また、適切な行動調整法を用いて最も重要な予防的歯科処置を行うとともに、基本的なう蝕治療、歯内治療、歯周治療、補綴治療ならびに外科治療の研修を行う。定期的に行う症例検討会や勉強会により、障がい者歯科治療を行う上で必要な知識の習得を行う。研修終了後は大学院、病院医員ならびに研修医として入局する事により、日本障害者歯科学会の認定医、ならびに専門医ならびに各種学会の認定医、専門医を取得することも可能である。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導體制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
障がい者の特殊性を理解し、障がい者に対する歯科医療の基本についての知識と技能を習得する。						
1.診査と診断						
【一般目標】						
障がい者に対する歯科医療を実践するために、診査と診断に必要な知識、態度、技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)障がい者の特徴を理解し、医療面接を行う。	① コミュニケーションスキルを習得する ② 面接技法を実践する	C-1(1)①	1レポート 1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (1)①については、患者への実践の上、レポートを1回作成することで修了とする。
(2)全身状況を判断するための情報を収集する。	① 主訴を聴取・記載する ② 現病歴、既往歴を聴取・記載する ③ 家族歴を聴取・記載する	C-1(1)①	1症例			
(3)全身および口腔外を診査する。	① 口腔外の診察および評価を行う	C-1(1)②	1症例			
(4)口腔内を診査する。	① 口腔内の診察および評価を行う	C-1(1)②	1症例			
(5)必要な検査を選択する。	① 適切な検査法を選択する ② 適切な検査を依頼する	C-1(1)③	1症例 1症例			
(6)必要な医療情報を収集する。	① 診療情報提供書を作成する ② 病状対診書を作成する	C-1(2)⑤、C-1(3)②	1症例 1症例			



2.治療計画						
【一般目標】						
適切な診査と診断の後に、一口腔一単位の治療計画の立案のための知識、態度、技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 口腔を一単位として治療計画を立てる。	① 一口腔単位の治療計画を作成する	C-1(1)⑤	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。
(2) 治療を能率のおよび効果的に進めるように優先順位を決定する。	① 得られた情報から病状を診断する	C-1(1)④	1症例			
	② 適切な治療方法の提示する	C-1(1)⑥	1症例			
	③ その他の治療方法の提示する		1症例			
(3) 応急処置により症状の軽減をはかる。	① 優先すべき治療を実践する	C-1(2)③	1症例			
	② 急性症状の緩和を図る		1症例			
(4) 患者および家族に治療計画についてインフォームドコンセントを実践する。	① 十分な説明を行い、患者本人・家族の意思決定を確認する	C-1(1)⑥	1症例			
3.障がい者に対する行動調整						
【一般目標】						
障がい者に対して適切な歯科医療を実践するために必要な行動調整を習得する。						
【行動目標】						
(1) 障がい者に対する行動調整について説明できる。	① 行動調整について理解・習得する	C-1(4)④	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。
(2) 患者の状況に応じた行動調整法を実施できる。	① 行動調整を実践する	C-1(4)④	1症例			
4.口腔保健と健康支援						
【一般目標】						
障がい者のう蝕および歯周疾患を予防するために必要な知識、態度、技能を習得する。						
【行動目標】						
(1) 障がい者の予防的処置の重要性を説明できる。	① 歯科疾患予防の知識を習得する	C-1(2)①	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。
	② 予防に関する処置法を習得する		1症例			
(2) 口腔内の清掃状態を評価する	① プラークチャートを作成する	C-1(2)②c	1症例			
	② 歯周管理計画表を作成する		1症例			
(3) PMTCを実践する。	① 歯面清掃を実践する	C-1(2)①	1症例			
(4) スケーリングを実践する。	① スケーリングを実践する	C-1(2)①	1症例			
(5) 患者および家族にホームケアについて説明、指導できる。	① 歯科保健指導を行う	C-1(2)①	1症例			

5.障がい者に対する歯科治療						
【一般目標】						
障がい者に対する基本的歯科治療を行うための知識、技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)基本的なう蝕治療を実践する	① セメント充填を実践する	C-1(2)②a	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。
	② レジン修復を実践する		1症例			
(2)基本的な歯内治療を実践する。	① 抜髄処置を実践する	C-1(2)②b	1症例			
	② 感染根管処置を実践する		1症例			
(3)基本的な歯冠修復を実践する。	① 支台築造を実践する	C-1(2)②a,e	1症例			
	② 歯冠修復(インレー、クラウン、ブリッジの形成、印象採得、咬合採得、セット)を実践する		1症例			
(4)単純な抜歯を実践する。	① 局所麻酔、伝達麻酔を実践する	C-1(2)②d	1症例			
	② 抜歯を実践する		1症例			
6.定期健診						
【一般目標】						
定期健診の重要性を理解し、定期健診の内容についての知識、態度、技能を習得する。						
【行動目標】						
(1)定期健診の意義と目的を説明する。	① 定期健診の意義と目的について知識を習得する		1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (1)①②については、レポートを1回作成することで修了とする。
	② 定期健診の必要性について説明できる		1レポート			
(2)定期健診を実施する。	① 定期健診、口腔健康管理を行う	C-1(2)①	1症例			
7.障がい者歯科におけるリスク評価と医療安全						
【一般目標】						
障がい者に対する歯科医療を安全に行うために障がい者のリスク評価と医療安全に関する知識を習得する。						
【行動目標】						
(1)障がい者のリスク評価を説明できる。	① 障がい者の特性について習得する		1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。 (1)①②については、レポートを1回作成することで修了とする。
	② 障がい者のリスクを評価する	C-1(4)④	1症例			
(2)障がい者歯科における医療安全を説明できる。	① 障がい者に対する医療安全対策の知識を習得する		1レポート			
	② 障がい者に対する医療安全を説明する	C-1(2)⑥	1レポート			

14)口腔リハビリテーション科

【研修概要】

口腔リハビリテーション科では、脳卒中などの疾患発症後や頭頸部がん施術後の口腔機能障害、加齢に伴う口腔機能の低下(オーラルフレイル)に対して、「食べる機能」をはじめとした、口腔が担う生活機能の改善・維持・予防を目的としたリハビリテーションや、障害の回復過程でのリハビリテーションと協調した歯科治療を行っています。また、可能な限り多職種連携し、「咬めない、飲み込めない、痩せてきた、発声しにくい、呂律がまわらない、話づらい」などの症状に対応します。

研修期間中には、リハビリテーションを実施していく際の口腔機能、嚥下機能、および全身機能の評価を習得し、摂食嚥下リハビリテーションの計画の立案をはじめ、全顎的な歯科治療計画の立案、高頻度治療、特に補綴治療による咬合再構築や、顎補綴などの専門的な知識・技術の習得を目指します。また、「食べる＝栄養摂取」に必要な栄養評価についても学修します。嚥下障害の専門的検査であるVF、VE検査も学修可能です。介護老人保健施設への訪問実践により、口腔機能、嚥下機能、全身機能、栄養の評価と歯科介入効果の検証も行います。

臨床研修修了後には、大学院生、非常勤研修医などの進路があり、更なる専門的知識・技術の習得が可能です。また、関連学会(日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本口腔リハビリテーション学会など)認定医の資格取得も可能です。

【プログラム】

到達目標	研修内容	国の示す到達目標の該当項目	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
歯科治療に関する基本知識や技能を習得し、後期高齢者、各疾患発症患者、要介護高齢者や障がい者等に関する口腔リハビリテーションと歯科医療の有用性を理解する。						
1.診査・評価・診断						
【一般目標】						
口腔リハビリテーションを実践するために診査・評価・診断に必要な基本的知識、態度、技能を身につける						
【行動目標】						
(1)口腔機能に問題のある患者の特徴を理解し、医療面接を行う。	① 面接技法の実践	C-1(1)①	1レポート	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。
	② コミュニケーションスキルの習得	C-1(1)①	1症例			
(2)病歴(主訴・現病歴・既往歴・家族歴)を聴取し、医療情報を収集する。	① 主訴の聴取の習得	C-1(1)①	1症例			
	② 現病歴・既往歴の聴取の習得	C-1(1)①				
	③ 家族歴の聴取の習得	C-1(1)①				
(3)患者の心理的・社会的背景に配慮する。	① 患者の心理的・社会的背景への配慮を適正に行う	C-1(1)①				
(4)全身・口腔外を診査する。	① 口腔外の診察	C-1(1)②	1症例			
	② 身体機能評価、頭頸部、顎顔面領域(頭頸部周囲筋、顎関節、咀嚼筋、嚥下関連筋群)の視診、触診	C-1(1)②				
(5)口腔内を診査をする。	① 口腔内の診察(残存歯、歯周組織、欠損部位、粘膜、顎堤、咬合関係など)	C-1(1)②	1症例			
	② 口腔の評価 (OHAT)	C-1(1)③				
	③ 細菌カウンタを用いた口腔細菌数(舌・軟口蓋・頬粘膜)の測定	C-1(1)③				
	④ ムーカス等を用いた口腔乾燥度の測定	C-1(1)③				
(6)画像診査をする。	① 必要な画像診査を行い、評価する	C-1(1)③				
(7)研究用模型を用いた情報収集を行う。	① 研究用模型の評価を行う	C-1(1)③				
(8)口腔機能・咀嚼機能の評価を適切に行う。	① 各口腔器官(口唇・舌・頬・軟口蓋)の機能評価	C-1(1)③				
	② 機器を使用し舌圧測定(舌圧計)、咀嚼力測定(咀嚼力判定ガム、グミ)、咬合圧(プレスケール)の測定					
(9)嚥下機能の評価・検査を適切に行う。	① 嚥下のスクリーニング法と嚥下能力の評価を行う	C-1(1)③④				
	② 頭部聴診法を習得する					
	③ 専門的検査であるVF・VE検査にて評価、診断を習得する					
(10)栄養評価を適切に行う。	① 主観的包括的アセスメント(SGA)、簡易型栄養状態評価(MNA-SF)、身体計測(上腕・下腿周囲長、上腕皮下脂肪厚)の評価を行う	C-1(1)③				
(11)得られた診査・評価から診断する。	① 得られた診査・評価から適正に診断を行う	C-1(1)④				

2.総合治療計画の立案と効果の検証							
【一般目標】							
診査・評価・診断の後、一口腔一身体一単位の治療計画および口腔リハビリテーションと協調した障害の回復過程に合わせた治療計画の立案と効果の検証のための知識・技能・態度を習得する。							
【行動目標】							
(1)身体機能・口腔機能・嚥下機能・栄養の初期評価を行う。	① 身体機能・口腔機能・嚥下機能・栄養の初期評価	C-1(1)②③	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。	
(2)一口腔一身体一単位の治療計画を立案する。	① リハビリテーション実施計画の立案 ② 総合歯科治療計画の立案	C-1(1)⑤					
(3)患者・家族に治療計画についてのインフォームドコンセントを実践する。	① 十分な説明を行い、患者・家族の意思決定を確認する	C-1(1)⑥					
(4)実施したりハビリテーションに対して適切に再評価を行う。	① 身体機能・口腔機能・嚥下機能・栄養の評価の再評価	C-1(1)②③					

3.一般歯科治療							
【一般目標】							
基本的歯科治療を行うための知識、技能を習得する。							
【行動目標】							
(1)基本的なう蝕治療を実践する。	① う蝕治療	C-1(2)②a	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。	
(2)基本的な歯内治療を実践する。	① 歯内治療	C-1(2)②b	1症例				
(3)基本的な補綴治療を実践する。	① 歯冠補綴治療	C-1(2)②e	1症例				
	② 欠損補綴治療		1症例				
(4)器質的欠損または機能障害に対する補綴治療を実践する。	① 顎補綴治療	C-1(2)②f	1症例				
	② PAP(舌接触補助床)、PLP(軟口蓋挙上装置)の作製	C-1(2)②f	1症例				
4.介護老人保健施設への訪問評価							
【一般目標】							
虚弱・要介護高齢者の生活機能維持・向上のために、身体機能・口腔機能・嚥下機能・栄養評価を実施し、食支援についての知識、態度、技能を習得する。							
【行動目標】							
(1)虚弱・要介護高齢者の精神的・心理的特徴を理解する。	① 精神機能面の評価	C-1(4)	1症例	患者配当型 症例配当型	治療の流れを連続して経験した場合を1症例と数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、1症例以上経験していることが必要。	
(2)虚弱・要介護高齢者の全身的・局所的の評価を行う。	① 全身的評価、身体機能の評価	C-1(4)					
	② 口腔機能・嚥下機能の評価	C-1(4)					
	③ 栄養評価	C-1(4)					
(3)口腔リハビリテーションの実践と指導	① 必要なリハビリテーション、維持的リハビリテーションの実践と指導	C-1(4)					
(4)食事場面の観察・評価	① 食事場面の観察と評価を行い、問題点の抽出を行う	C-2(2)③④					
	② 安全な食事を行うための環境調整を提案する	C-2(2)③④					
(5)食に関わる多職種との情報交換・連携	① 多職種との情報交換を行い、問題点の解決を円滑に行う	C-2(2)⑦					

